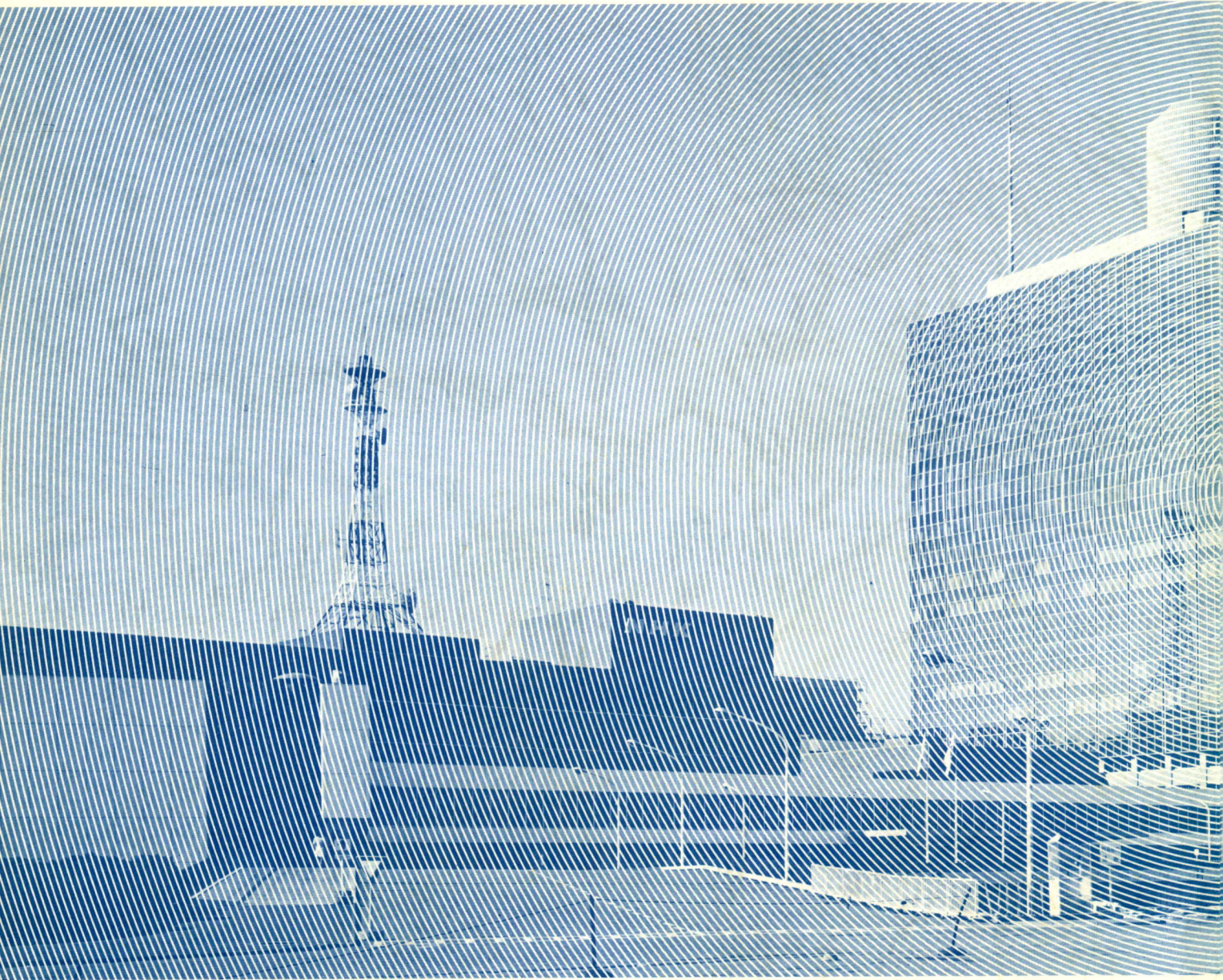




日本賞

THE
JAPAN
PRIZE
1973





授賞式風景

第9回
「日本賞」
教育番組国際コンクール

昭和48年10月5日～19日

東京

会場・NHK放送センター



日本放送協会

目 次

はじめに	6
受賞番組	8
佳作番組	8
審査委員	9
オブザーバー	10
参加状況	11
コンクールの日程	12
授賞式	16
審査報告	24
受賞番組解説	27
佳作番組解説	32
審査委員の感想	39
おわりに	50
参加番組一覧	52

■はじめに



日本放送協会会長

小野吉郎

今回の「日本賞」コンクールは、10年の歳月の後にようやく完成を見たNHK放送センターで、初めて実施されましたが、お陰をもちまして、例年に勝る大きな成果を残して、盛会のうちに終了しました。

今回のコンクールには、世界の54か国86機関から、ラジオ、テレビ合わせて156に上る多数の教育番組が参加しました。この参加状況の中でとりわけ印象深かったことが二つあります。一つは、年々増加の一途をたどっているカラー番組が、今回はさらに増えて、テレビ部門の参加総数の丁度半数に当たる44本に達したことであり、もう一つは、今回のコンクールには、国の数では4、放送機関では13に上る初参加があったことです。その4か国の中には、ビルマ（アジア）、ボツワナ（アフリカ）、ベネズエラ（中南米）と並んで、ドイツ民主共和国の名も見られました。ドイツ民主共和国は、懸案のITU（国際電気通信連合）への加盟を果たし、同時にこのコンクールへの参加資格を得て、今回から初めて参加してきたものです。新しく仲間入りしたこれらの国々に心から声援を送りたいと思います。

次に、参加作品を内容の面からながめてみますと、ここには二つの大きな特色が見られます。一つは、年々向上の目覚ましい発展途上国の作品が、今回は、特に初等中等部門において、先進諸国の作品をしのぐほどの充実ぶりを示していたことであり、もう一つは、ラジオ、テレビ共に日本賞を成人教育番組が受けたことが物語るよ

うに、今回は、特に成人教育の分野に優れた作品が多く見られたことです。前者は、発展途上国が学校教育を中心に教育放送を着実に伸長させていることを示し、また後者は、教育放送を時代の要請とも言うべき成人教育や生涯教育のために活用しようとする、先進諸国を中心とした世界の教育の動向を示唆するものとして、共に注目に値します。

社会情勢の変化に伴い、各国の、また各個人の教育的要請は年々高まり、また多様化していく傾向にあります。それにつれて、教育放送に寄せられる期待と要請もますます大きくなっています。このような時に当たり、私どもは、「日本賞」コンクールの創設の趣旨を常に念頭に置き、このコンクールを通じて、これらの期待と要請にいくらかなりともこたえていきたいと念願しております。

幸い、多年の懸案であった「日本賞」巡回ライブラリーは、世界の関係機関のご理解とご協力を得て、今年の1月に発足させることができました。これによって、優れた教育番組が広く世界各地の教育放送関係者に見て頂けることになり、このコンクールに新たな意義を加えることができましたことは、主催者として誠に喜びにたえません。

第9回「日本賞」コンクールは、数々の実りを残して終了しました。これは、ひとえに、内外の多数の放送機関や関係各位の熱意あるご支援と審査委員諸氏のご尽力

に因るものと、深く感謝しております。

1975年の3月にわが国は放送開始50周年を迎えますが同時にこの年は、学校放送開始の40周年に当たります。そしてまた、この「日本賞」コンクールも、次回は記念すべき10周年を迎えることとなります。このコンクールがその役割を今後も着実に果たしていくことができますように皆様のいっそうのお力添えをお願いするしだいです。

ここに、第9回「日本賞」コンクールの報告書を作成し、皆様のご高覧に供します。

1974年3月

受賞番組

ラジオ・テレビの別	賞名	題名	部門	制作機関
ラジオ	日本賞	ルネッサンスと宗教改革 —イギリスの室内楽合奏曲—	成人	公開大学（イギリス）
	文部大臣賞	お話でてこい —かきくけこ、かきくけこ—	初等	日本放送協会—NHK
	東京都知事賞	脳の働き	中等	ルーマニア国営放送
	特別賞	未来をみつめて	初等	ボツワナ国営放送
	”	西アフリカの歴史 —ヨーロッパ人の到来—	中等	ケニア国営放送
	”	健康の時間 —乳児死亡率を下げるには—	成人	ニジェール国営放送
審査委員賞	お話と詩 —この世の始まり—	初等	イギリス放送協会—BBC	
テレビ	日本賞	応急処置—12のテスト—	成人	第2ドイツ・テレビジョン協会
	郵政大臣賞	エレクトリック・カンパニー	初等	CTW（アメリカ合衆国）
	阿部賞	旅行案内所にて	中等	プレーメン放送協会（西独）
	ユニセフ賞	カルラスコレンダス	初等	KLRNテレビジョン （アメリカ合衆国）
	特別賞	消化の働き	初等	エルサルバドル教育テレビジョン
	”	座標	中等	マレーシア国営放送
	”	ジョアン・ダ・シルバ	成人	ブラジル教育テレビセンター
審査委員賞	アスカとオオカミ	初等	ユーゴスラビア国営放送 （ザグレブ・テレビ局）	

佳作番組

ラジオ・テレビの別	題名	部門	制作機関
ラジオ	闇（やみ）におびえる子 ドラッグ（麻薬） メンデルスゾーンと スコットランド	初等 中等 成人	スウェーデン放送協会—SR 西部ドイツ放送協会—WDR イスラエル放送協会
テレビ	地球 先人の苦勞を知ろう —カナダ社会の生い立ち— 計画出産	初等 中等 成人	スウェーデン放送協会—SR アルバータ視聴覚教育放送（カナダ） ベルギー放送協会（フラマン語）—BRT

審査委員

参加放送機関代表（10名）

《ラジオ部会》

地域	国名	審査委員名	現職
アジア	ネパール	ナレンドラ・パンデイ	ネパール国営放送 外国向け放送部長
西欧	アイルランド	ミーブ・コンウェイ＝ビスコル スキー女史	アイルランド放送協会 教育番組部長
東欧	チェコスロバキア	バルトロメイ・フラサティール	チェコスロバキア国営放送 編成部長
アフリカ	ニジェール	ブレーマ・マガギ	ニジェール国営放送 番組部長
中南米	ブラジル	アベリーノ・エンリーケ・ドス・サントス（部会長）	ブラジル教育文化省教育ラジオ局 局長

《テレビジョン部会》

アジア	マレーシア	ジョージ・ブルギス	マレーシア国営放送 教育テレビ番組部長
西欧	デンマーク	ラウリッツ・ピンズレウ	デンマーク放送協会 テレビジョン局長
北米	アメリカ合衆国	ロバート・F. シェンカン （副部会長）	アメリカ公共放送サービス 理事会議長 KLRNテレビジョン会長
中南米	エルサルバドル	カルロス・ヘイマンス	エルサルバドル教育省 教育テレビジョン局 局長
日本	日本	寺脇信夫	日本放送協会 放送総局 通信教育番組班 部長

学識経験者（4名）

《ラジオ部会》

北米	アメリカ合衆国	クレアレンス・R. カーペンター （副部会長）	ペンシルベニア大学 名誉教授（心理学，人類学）
日本	日本	東洋	東京大学 教授（教育学）

《テレビジョン部会》

西欧	西ドイツ	ゲルハルト・マレツケ （部会長）	アジア・マスコミュニケーション 研究・情報センター（AMIC）事務局次長 （在シンガポール）
アフリカ	ナイジェリア	オモレイェ・ファシーナ （審査委員長）	アフリカ放送連合（URTNA）会長

オブザーバー

地域	国名	オブザーバー	現職
アジア	ホンコン	リュン・スンシャン	ホンコン政庁教育テレビジョン 英語番組制作主任
	日本	中沢 弘一	神奈川県教育庁 指導部 教育放送課 課長
		矢橋 恵一	神奈川県教育庁 指導部 教育放送課 副主幹
		石井 良一	神奈川県教育庁 指導部 教育放送課 主任主事
		坂本 元嗣	ポリテール(西ドイツ・テレビ番組制作配 給会社)東京駐在員
西欧	西ドイツ	ハンス・モール	第2ドイツ・テレビジョン協会 企画制作担当
	スウェーデン	ルイセ・クムリエン女史	スウェーデン放送協会 教育放送部 テレビ番組担当
		ブリッタ・ワルネル女史	スウェーデン放送協会 教育放送部 ラジオ学校放送担当
	スイス	ビキシヨ・カンドルフィ	スイス放送協会—SSR— (イタリア語地域放送協会) 科学・文化局長
		ビキシヨ・カンドルフィ氏夫人	
東欧	ブルガリア	ローゼン・バシリエフ	ブルガリア国営放送 編成主幹
		アントワネータ・オニェノーバ 女史	ブルガリア国営放送 編成担当
	チェコスロバキ	ジャン・パブレツ	チェコスロバキア国営放送 教育番組部長
	ハンガリー	ミクロス・シネタル	ハンガリー国営放送 芸術番組担当
アフリカ	アルジェリア	ビュシール・ベルアジ	アルジェリア国営放送 テレビ番組制作担当
	南アフリカ共和国	H. J. P. ラップ	南アフリカ放送協会 ソト語放送部長
北米	アメリカ合衆国	ウォーカー・G. バックナー	ケン財団
		クレアレンス・レイ・カーペン ター氏夫人	ペンシルベニア大学 名誉教授(ラジオ部会審査委員) 夫人
		ジーン・パーテル女史一行	アメリカ合衆国テレビ芸術・科学アカデミー 国際委員会, ハリウッド支部長及び会員有志
		A. ジェフ・トッディスコ	カリフォルニア州バークレイ市 実験高校部長, フルブライト研究員(在東京)
		アイダ・バルレーラ女史	KLRNテレビジョン 制作担当主幹
		フレデリック・P. クローズ	アイダ・バルレーラ女史の夫君
中南米	メキシコ	ホセ・バルベレーナ・P.	メキシコ国立自治大学 教養番組局, フィルム番組担当
		エルサ・レティエーシャ・デ ・レガルレータ・C.	テレビサ・S. A. 文芸部主管, 制作担当主管補
		マリオ・エンリーケ・ブラーボ・ R.	メキシコ科学技術庁 (CONACYT) テレビ番組ライター

参 加 状 況

参加国・参加機関

地 域	参 加 国	参加機関数
ア ジ ア	13 (1)	17 (2)
大 洋 州	3	3
中 近 東	3	4
西 欧	12	21
東 欧	8 (1)	8 (1)
ア フ リ カ	8 (1)	8 (1)
北 米	2	18 (6)
中 南 米	5 (1)	7 (3)
合 計	54 (4)	86 (13)

() 内は初参加国または初参加機関の数

参加番組数

ラ ジ オ		テレビジョン	
初等教育部門	29(2)	初等教育部門	37(20)
中等教育部門	22	中等教育部門	26(9)
成人教育部門	17	成人教育部門	25(15)
合 計	68(2)	合 計	88(44)

() 内はラジオビジョン番組数 () 内はカラー番組数

参加番組科目別分類

《ラジオ》

科目	部 門			
	初 等	中 等	成 人	計
芸 術	0	1	2	3
公 民	2	0	0	2
文 盲 対 策	0	0	2	2
地 理	1	1	0	2
保 健 衛 生	0	0	2	2
歴 史	2(1)	2	2	6(1)
言語 (国 語)	5	1	1	7
言語 (外国語)	1	3	0	4
文 学	3(1)	1	0	4(1)
数 学	0	1	0	1
道 徳	2	0	0	2
音 楽	5	0	2	7
科 学 会	1	8	0	9
社 会	3	2	1	6
そ の 他	4	2	5	11
計	29(2)	22	17	68(2)

注) 体育, 宗教, 技術指導の3科目については, 今回は参加なし。() 内はラジオビジョン番組数

初参加国名

- ビルマ (アジア) ○ドイツ民主共和国 (東欧)
 ○ボツワナ (アフリカ) ○ベネズエラ (中南米)

初参加機関名

○アジア

テレビ神奈川 (TVK) — 日本
 ビルマ国営放送—ビルマ

○東 欧

東ドイツ国営放送—ドイツ民主共和国

○アフリカ

ボツワナ国営放送

○北 米

KLRN テレビジョン
 (テキサス) — アメリカ合衆国

KPCS トータルラジオ
 (カリフォルニア) — "

スタンダード学校放送
 (カリフォルニア) — "

タフト放送会社
 (オハイオ) — "

WMAR テレビジョン
 (メリーランド) — "

W I I C コックス放送会社
 (ペンシルベニア) — "

○中南米

ブラジル教育テレビセンター — ブラジル
 テレビ・ガゼータ (CANAL 11) — "

エドゥカテル (EDUCATEL) — ベネズエラ

《テレビ》

科目	部 門			
	初 等	中 等	成 人	計
芸 術	1(1)	1	1(1)	3(2)
公 民	1(1)	0	1(1)	2(2)
地 理	1	2(1)	0	3(1)
保 健 衛 生	1(1)	0	2(2)	3(3)
歴 史	1	3(1)	4(2)	8(3)
言語 (国 語)	2(2)	0	1	3(2)
言語 (外国語)	2	5(1)	1(1)	8(2)
文 学	2(1)	1	1	4(1)
数 学	2(2)	1	0	3(2)
道 徳	1	0	0	1
音 楽	2(1)	1(1)	0	3(2)
科 学 会	6(3)	5(3)	5(3)	16(9)
社 会	7(2)	4(2)	1	12(4)
技 術 指 導	0	0	1(1)	1(1)
そ の 他	8(6)	3	7(4)	18(10)
計	37(20)	26(9)	25(15)	88(44)

注) 文盲対策, 体育, 宗教の3科目については, 今回は参加なし。() 内はカラー番組数

コンクールの日程

10月5日(金)	9:30—10:00	組織会議	NHK放送センター 第2会議室(22F)
	10:30—12:00	開会総会	〃
	13:30—15:30	研究施設見学	NHK総合技術研究所
	16:30—17:30	放送施設見学	NHK放送センター
	19:00—21:30	コロ舞踊団公演鑑賞	NHKホール
10月6日(土)	9:15—12:30	審査	NHK放送センター
	14:00—18:30	審査	〃
10月7日(日)	9:30—17:30	見学	都内各所
	17:30—19:00	「歌はともだち」 公開録画見学	NHKホール
10月8日(月)	9:15—12:30	審査	NHK放送センター
	14:00—17:30	審査	〃
10月9日(火)	9:15—12:30	審査	NHK放送センター
	14:00—18:30	審査	〃
10月10日(水)	9:30—18:30	日帰り観光	横浜, 鎌倉
10月11日(木)	9:15—12:30	審査	NHK放送センター
～12日(金)	14:00—18:30	審査	〃
10月13日(土)	9:15—12:30	審査	NHK放送センター
	14:00—18:00	審査	〃
10月14日(日)	17:00—20:00	歌舞伎観劇	歌舞伎座
10月15日(月)	9:15—12:00	審査	NHK放送センター
	13:00—15:00	審査	〃
10月16日(火)	9:15—12:00	最終総会	〃
	13:00—14:10	学校見学	東京都渋谷区立渋谷小学校
	14:30—16:00	セミナー	NHK放送センター 大会議室(22F)
10月17日(水)	8:00～	観光旅行	日光
10月18日(木)	～16:00	〃	〃
10月19日(金)	13:20—15:00	授賞式	NHK CT-101スタジオ

参加番組の国内向け放送

ラジオ第2放送 10月21日(日) 19:30~20:00

「イングリッシュアワー」

- ・「未来をみつめて」 (初等部門・社会)
ボツワナ国営放送制作—特別賞受賞作品

- ・「西アフリカの歴史—ヨーロッパ人の到来」
(中等部門・歴史)
ケニア国営放送制作—特別賞受賞作品

(再放送) 10月21日(日) 23:30~24:00

10月23日(火) 14:00~14:30

ラジオ第1放送 10月25日(木) 10:05~11:30

「みんなの茶の間」

- ・「お話でてこい—かきくけこ, かきくけこ—」
(初等部門・国語)
日本放送協会制作—文部大臣賞受賞作品

総合テレビ 12月1日(土)16:00~17:00(カラー)

- ・「応急処置—12のテスト」
(成人部門・保健衛生)
第2ドイツ・テレビジョン協会制作—
日本賞受賞作品

12月9日(日)17:00~17:30(カラー)

- ・「エレクトリック・カンパニー」
(初等部門・国語)
CTW(アメリカ合衆国)制作—
郵政大臣賞受賞作品

コンクール関連番組

総合テレビ

10月14日(日) 8:10~8:30

「スタジオからこんにちは」

- ・「日本賞と教育放送」

出席 津下 正孝(東京都大田区立入新井第二小学校教諭)

吉田 正(「日本賞」コンクール事務局長)

なべおさみ, 植木まり子

(「びっくりばこドン」出演者)

司会 山川 静夫 アナウンサー

高木 寿子 (アシスタント)

10月19日(金) 7:35~8:12

「スタジオ 102」の一部において, 今コンクールの参加者に印象などを聞く。

出席 ハンス・モール(オブザーバー)

ジョージ・ブルギス

(テレビジョン部会審査委員)

10月19日(金) 13:20~14:15

「第9回日本賞教育番組国際コンクール授賞式」

(放送センターCT-101スタジオから全国中継)

教育テレビ

10月19日(金) 20:00~21:00

「教養特集」(カラー)

- ・「第9回日本賞コンクールを顧みて」

出席 ミーブ・コンウェイ=ピスコルスキー女史
(ラジオ部会審査委員)

ジョージ・ブルギス (テレビジョン部会審査委員)

ロバート・F. シェンカン (部会審査委員)

オモレイェ・ファシーナ (審査委員長)

司会 吉田 正(「日本賞」コンクール事務局長)

(再放送) 10月22日(月) 16:30~17:30

11月9日(金) 20:00~21:00

「教養特集」(カラー)

- ・「放送による学習の効果と教育の未来」

(クレアレンス・レイ・カーペンター氏—ラジオ部会審査委員, ペンシルベニア大学名誉教授—による記念講演)

(再放送) 11月12日(月) 16:30~17:30

組織会議



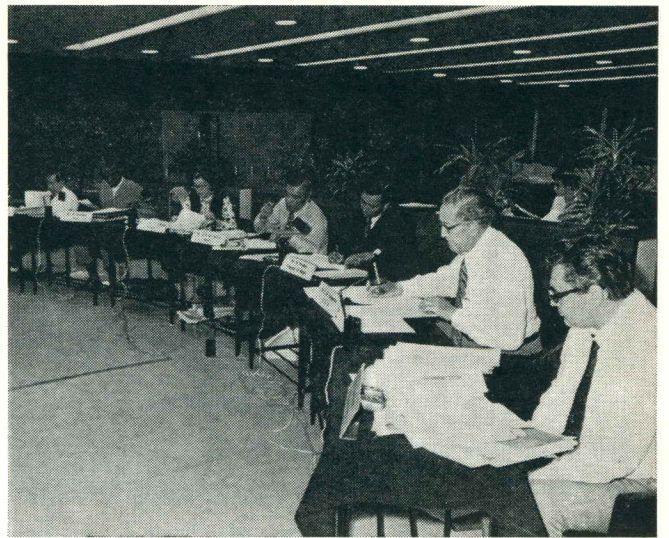
組織会議であいさつする
小野NHK会長



開会総会



開会総会におけるO.ファッション審査委員長と
吉田コンクール事務局長



テレビ審査室

ラジオ審査室



セミナー

「日本賞」記念講演

授 賞 式



あいさつをする小野NHK会長

第9回「日本賞」教育番組国際コンクールの授賞式は10月19日（金）午後1時20分から、東京・渋谷のNHK放送センターのCT・101スタジオで行なわれた。式には、田中内閣総理大臣（代理 二階堂官房長官）、奥野文部大臣、久野郵政大臣、鬼丸郵政政務次官、美濃部東京都知事（代理 日向都教育長）、古垣日本ユニセフ協会会長、国会議員、教育関係者のほか、関係各国の大使、領事館代表、海外放送機関代表、海外報道機関の駐日特派員など約500人が出席した。

来賓の祝辞の中で、田中内閣総理大臣は“今後、参加各国が国際社会の中で、高度の福祉社会への道を進むに当たり、国民一人一人が豊かな創造力、国際社会への広範な理解力、変化する経済社会への主体的な適応力を養う必要がある、この面における放送文化、特に教育番組の果たす役割は極めて大きい。教育放送の進歩、充実のために、参加各国は今後とも努力を注いでほしい。”と述べた。続いて、久野郵政大臣は“近年、放送の発展はまことに目覚ましく、文化の向上、産業経済の発展に大きな役割を果たしているばかりでなく、今やわれわれの日常生活に不可欠のものとなっており、また、国際間における文化の交流をいっそう盛んなものとしている。今回ここに、世界各国の優れた教育放送番組が一堂に集められ、厳正な審査により、日本賞をはじめとする受賞作品が選ばれたことは、世界の教育番組の質的向上に寄与するばかりでなく、国際理解を深めるために、まことに大きな意義がある。”と述べた。また、奥野文部大臣は、“ラジオ、テレビを教育に活用する動きは、世界各国に

見られるが、この分野での国際間の協力が深い意義をもち、その必要性が高まっていることは言うまでもない。その意味で、「日本賞」コンクールを通じて、世界各国が手をつなぎ教育放送番組の向上を図ろうとすることは、極めて意義のあることである。「日本賞」コンクールを通じて、世界各国の放送機関が、今後とも力を合わせて、教育文化の向上のために、よりいっそうの努力を傾けてほしい。”と述べた。

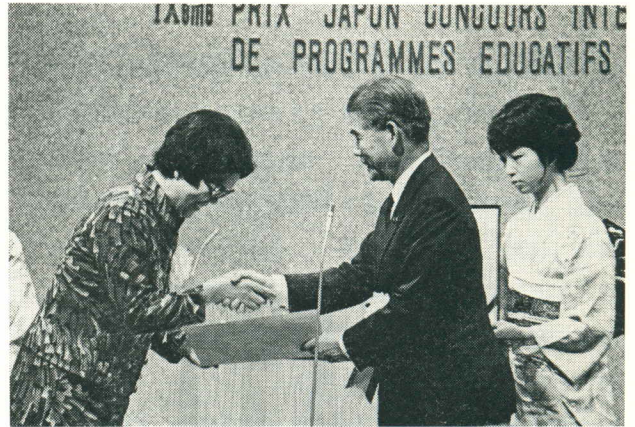
このほか、オブザーバーを代表して、スウェーデン放送協会のルイセ・クムリエン女史の祝辞があり、最後に審査委員長のおモレイェ・ファッション氏が、本コンクールの審査経過を報告した。

一方、主催機関のNHKを代表してあいさつに立った小野会長は、“今や、マスメディアとしての放送を教育に活用する動きは、世界の大きな流れとなっている。こうした動向を考慮し、NHKでは、このコンクールで選ばれた優秀番組を、世界のできるだけ多くの方々に見て頂くため、今年から「日本賞」巡回ライブラリーを発足させたいと考えている。”と述べたあと、“このコンクールも次回で10回目を数え、また再来年には、わが国の放送開始50周年を迎える。NHKは、放送の占める大きな役割を十分に自覚し、世界の放送機関、教育関係者の大きな支持と協力の下に、このコンクールを通じて、世界の教育放送の向上のために、いっそうの努力を続けたい。”と結んだ。

授賞は次の順序で行なわれた。



東京都知事賞を受けるグレゴリー・アルジア氏



文部大臣賞を受ける武井照子女史

東京都知事賞（ラジオ）

「脳の働き」 ルーマニア国営放送制作
 （受賞者） ルーマニア大使館 2等書記官 グレゴリー・アルジア
 （授与者） 東京都教育長 日向 美幸

文部大臣賞（ラジオ）

「お話でてこいーかきくけこ、かきくけこー」 日本放送協会制作
 （受賞者） 日本放送協会放送総局 青少年幼児番組班 武井 照子
 チーフ・ディレクター
 （授与者） 文部大臣 奥野 誠亮

阿部賞（テレビ）

「旅行案内所にて」 ブレーメン放送協会（西ドイツ）制作
 （受賞者） 西ドイツ放送連盟 駐日代表 フリッツ・シュテック
 （授与者） 日本放送協会 会長 小野 吉郎

郵政大臣賞（テレビ）

「エレクトリック・カンパニー」 CTW（アメリカ合衆国）制作
 （受賞者） アメリカ大使館広報文化局 リチャード・D. モア
 事業本部長
 （授与者） 郵政政務次官 鬼丸 勝之



阿部賞を受けるフリッツ・シュテック氏



郵政大臣賞を受けるリチャード・D. モア氏

日 本 賞 (ラジオ)

「ルネッサンスと宗教改革—イギリスの室内楽合奏曲—」 公開大学 (イギリス) 制作

(受賞者) イギリス大使館 参事官 (文化担当) ロビン・A. H. デューク
ブリティッシュ・カウンセル館長

(授与者) 日本放送協会 会長 小野 吉郎

日 本 賞 (テレビ)

「応急処置—12のテスト」 第2ドイツ・テレビジョン協会制作

(受賞者) 第2ドイツ・テレビジョン協会 企画制作担当 ハンス・モール

(授与者) 日本放送協会 会長 小野 吉郎 (オブザーバー)

ユニセフ賞 (テレビ)

「カルラスコレンダス」 KLRNテレビジョン (アメリカ合衆国) 制作

(受賞者) KLRNテレビジョン 制作担当主幹 アイダ・バルレーラ女史
(オブザーバー)

(授与者) 日本ユニセフ協会会長 古垣 鉄郎

特 別 賞 (ラジオ)

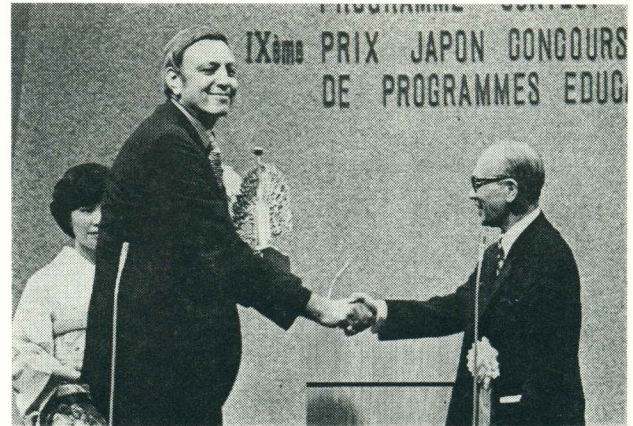
「未来をみつめて」 ボツワナ国営放送制作

(受賞者) ネパール国営放送 外国向け放送部長 ナレンドラ・パンディ
(ラジオ部会審査委員)

(授与者) ペンシルベニア大学名誉教授 クレアレンス・R. カーペンター
(")



日本賞(ラジオ)を受けるロビン・A.H.デューク氏

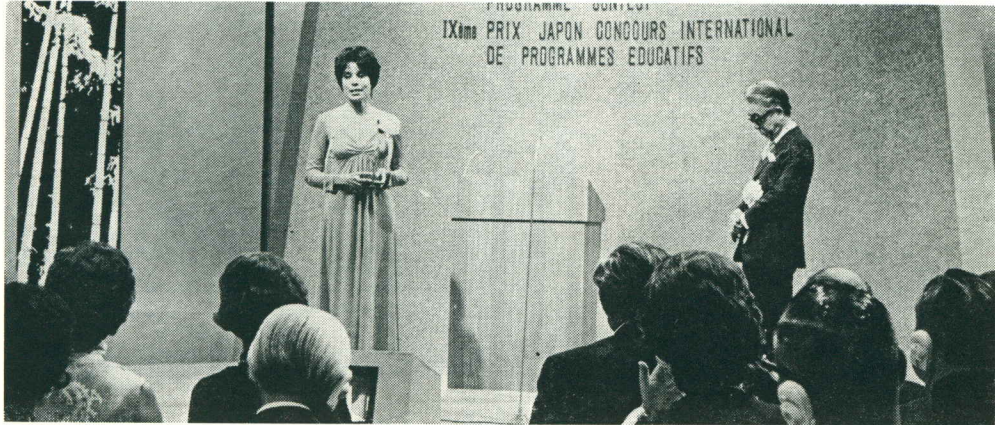


日本賞(テレビ)を受けるハンス・モール氏

- 「西アフリカの歴史—ヨーロッパ人の到来—」 ケニア国営放送制作
 (受賞者) 東京大学教授 東 洋 (ラジオ部会審査委員)
 (授与者) アイルランド放送協会 教育番組部長
 ミーブ・コンウェイ=ピスコルスキー女史 (ラジオ部会審査委員)
- 「健康の時間—乳児死亡率を下げるには—」 ニジェール国営放送制作
 (受賞者) ニジェール国営放送 番組部長 グレーマ・マガギ (ラジオ部会審査委員)
 (授与者) チェコスロバキア国営放送 編成部長 パルトロメイ・フラサティエ (ラジオ部会審査委員)

特 別 賞 (テレビ)

- 「消化の働き」 エルサルバドル教育テレビジョン制作
 (受賞者) エルサルバドル教育省 カルロス・ヘイマンス (テレビ部会審査委員)
 教育テレビジョン局長
 (授与者) 日本放送協会 放送総局 寺脇 信夫 (テレビ部会審査委員)
 通信教育番組班部長
- 「座 標」 マレーシア国営放送制作
 (受賞者) マレーシア国営放送 ジョージ・ブルギス (テレビ部会審査委員)
 教育テレビ番組部長
 (授与者) KLRNテレビジョン会長 ロバート・F. シェンカン (テレビ部会審査委員)



ユニセフ賞を受けて喜びのあいさつをするアイダ・バルレーラ女史

「ジョアン・ダ・シルバ」 ブラジル教育テレビセンター制作

(受賞者) ブラジル大使館 文化担当官 ペドロ・シスト
 (授与者) デンマーク放送協会 ラウリッツ・ビンズレウ
 テレビジョン局長 (テレビ部会審査委員)

審査委員賞 (ラジオ)

「お話と詩—この世の始まり—」 イギリス放送協会 (BBC) 制作

(受賞者) イギリス放送協会 日本支局代表 デイビッド・スミートン
 (授与者) ブラジル教育文化省 アベリーノ・ドス・サントス
 教育ラジオ局長 (ラジオ部会審査委員)

審査委員賞 (テレビ)

「アスカとオオカミ」 ユーゴスラビア国営放送 (ザグレブ・テレビ局) 制作

(受賞者) ユーゴスラビア大使館 領事課長 ミッジャ・ミリッチ
 (授与者) アジア・マスコミュニケーション研究 ゲルハルト・マレツケ
 ・情報センター (AMIC) 事務局次長 (テレビ部会審査委員)

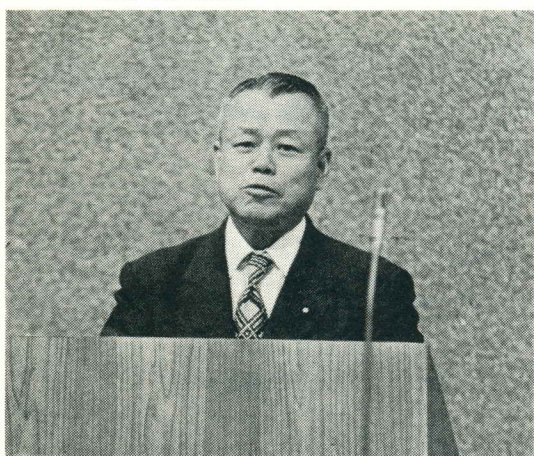
授賞式



内閣総理大臣の祝辞を代読する
二階堂内閣官房長官



祝辞を述べる奥野文部大臣



祝辞を述べる久野郵政大臣



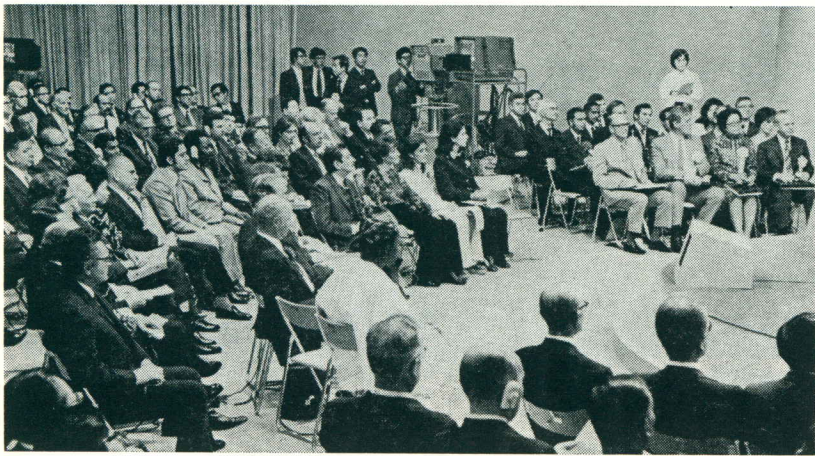
外国人来賓を代表して祝辞を述べる
ルイセ・クムリエン女史(スウェーデン放送協会)



授賞式会場



出席者の表情



受賞の時を待つ各放送機関の代表



東京都渋谷区立本町東小学校児童の合唱



喜びの受賞者たち



審査報告

NHK会長，各大使閣下，そしてご出席の皆様，ここに第9回「日本賞」コンクールの審査委員長として，私たち審査委員の活動についてご報告し，また，審査の結果私たちの気づいた点をいくつかお伝えできますことは，私にとってまたとない光栄であります。

「日本賞」コンクール規約に基づき，審査委員会は14名で構成されました。国の数にしますと12か国になります。この14名は7名ずつの二つのグループに分かれ，その一つはラジオ部門に参加した68の番組の審査に当たり，もう一つのグループはテレビ部門に参加した88の番組を審査しました。ついでながら，ラジオ番組全部を審査するのに1427分，テレビ番組の視聴には2260分かかりました。

全般的に見ますと，二つまたはそれ以上のさまざまなコミュニケーション・メディアを計画的，体系的に組み合わせ教育目的に利用するという傾向が目立ってきていることが，ラジオ，テレビの多くの番組から感じられました。しかし，少なくとも，この試みを実施するための技術については，今後，数多くの放送機関の手で，全面

審査委員長

オモレイェ・ファシーナ

アフリカ放送連合（URTNA）会長

的な研究・開発が行なわれなければならないと思われ
ます。

ラジオ番組は、初等、中等、成人とも、世界各地の何
百人もの優れた人材によって、この上なく創造的な努力
が払われたことがわかります。番組の主題はもちろん、
その取り扱い方、技術面、そして全体の構成にいたるま
で、実に多種多様なものがありました。この多様さは、
世界の教育ラジオ放送の目覚ましい成長、発展の姿を示
すものでした。

番組の大多数は、どこの国のものも、教育ラジオ番組
が果たすことのできる重要な役割に焦点を合わせたもの
でした。これらの番組は、各部門とも、普通教育課程の
すべての教科を網羅しており、また、特に成人部門では
かなりの数の番組が、成人の側からの要求を満たすもの
でした。人類の知識が、ほとんどすべての分野において
急速に増大している今日、成人の聴取者を対象にこうし
た教育番組を制作することは、たいへん重要なことで
す。

私たち審査委員が集中的に番組を聴いてみて受けた印
象は、ラジオは、教育メディアの一つとして、今、成熟
への道をたどり始め、いよいよその真価を発揮するに至
った、ということであり、また、世界のいくつかの広大
な地域においては、より複雑なメディアであるフィルム
やテレビをもってしても、ラジオの代用をさせることは
できないし、またさせるべきではない、ということでは
した。

イギリスの公開大学の制作した番組「イギリスの室内
楽合奏曲」は日本賞に選ばれましたが、これはあらゆる
面で卓越していました。これは目を見張るばかりの方法

で、その教育目的を見事に達成していました。取り入れ
られた資料や素材も、この番組のねらいにかなったもの
でした。この番組の制作に当たって相当の努力が払われ
たことは疑いのないところです。しかし、この努力はそ
れに見合うだけの結果を生んだのです。

私がラジオ番組について述べてきたことの多くは、そ
のままテレビ番組にも当てはまります。番組の大多数は
平均をはるかにしのぐものでした。番組を見てわかるこ
とは、それぞれの国やテレビ放送機関によって、その目
指している目標や目的にかなりの隔りがあり、また、そ
の目標を達成するための手段、機器、手法などについて
の考え方にも、やはり相当の開きがある、ということだ
す。

私たち審査委員がはっきりと感じたことは、テレビが
教育上の諸目的のために提供できる可能性の全部を、私
たちはまだじゅうぶんに活用しきっていない、というこ
とであり、「日本賞」コンクールは、これらのさまざまな
可能性を明らかにするための優れた試みである、とい
うことです。

これも私たちが感じたことですが、優れた番組を制作
しようとするならば、制作者は、その番組によって、視
聴者を受身の立場から、能動的で、責任を自覚した市民
に変えていこうとする姿勢を持つことが望ましい、とい
うことです。

西ドイツのZDF（第2ドイツ・テレビジョン）が制
作した「応急処置—12のテスト—」は、受賞作としての
資格要件をすべて満たしているものとして評価され、日
本賞の受賞作品に選ばれました。

これは、独特の手法で制作された優れた番組であり、

その高度の演出技術によって、一般の大人たちに、さまざまな緊急事態に際してどのように応じたらよいかを、実例を通して再考させようとしています。

発展途上国の教育テレビについて、私たち審査委員は、次のような結論に達しました。まず、番組の水準が目ざましく向上してきており、また、これらの番組の大部分が、その他の地域からの参加番組に対し、あらゆる角度において、じゅうぶんに太刀打ちできるものであった、ということです。しかし、半面、発展途上国では、資金面に限りがあるために、教育目的のために、テレビの持つ可能性のすべてをフルに活用できる、という状態には、まだ達していない、ということも明らかなことです。

世界のどの国においてもコミュニケーションと並んで教育がその未来を決定する重要な要素になっていますがその国々間の交流と相互理解を推進する手段としてこの「日本賞」を考えてみますと、国際的性格を帯びたこのコンクールの重要性は、どんなに強調しても足りないほどに大きなものなのです。

このアイデアを考え出し、それを実行に移した偉人たちは、人類に対して計り知れないほどの貢献を行なった、と言えるのです。審査委員会の席に連なった私の同僚たちに代わり、そしてまた私自身からも、ここで、その偉人たちの先見の明に対し、敬意を表するしだいです。もっとも、この人たちにとっては、このコンクールの成功そのものに勝る賛辞はあり得ないでしょう。

私は、NHKと小野吉郎会長、そして、会長と共に今年のコンクールを成功させるためにあれこれと立ち働かれ、また、私たちの日本滞在をこの上なく楽しい、忘れ

得ないものにしてくださったNHK職員の皆さんに、心からの感謝を申し上げなければなりません。

さらに、事務局長の吉田氏に、私たちは格別の謝意を表するしだいです。吉田氏は「日本賞」コンクールの創設以来、常にその牽引力となられ、計り知れない貢献をしてこられました。吉田氏と事務局員の皆さんは、驚くほど能率的、かつ正確に、このコンクールを運営されました。その仕事ぶりはまさに一点の非の打どころもないほどでありました。私たちは、審査委員としてこの仕事に加わることができたことを誇らしく思っております。

終わりに、受賞者の皆様と佳作の表彰を受けられる方々に心からお祝いを申し上げます。授賞を前に長い間ご清聴をわずらわせました。

ありがとうございました。

受賞番組解説

■ラジオ

日本賞

題名 ルネッサンスと宗教改革
—イギリスの室内楽合奏曲—
部門 ラジオ成人教育放送番組部門
科目 音楽
制作機関 公開大学（イギリス）
使用語 英語
内容時間 17分30秒
制作者 アラスデア・クレア

（内容）

ルネッサンスと宗教改革について、歴史、文学、音楽、絵画、宗教、哲学などの全般にわたって教えるシリーズの中の1番組で、公開大学第2学年向け芸術科の時間である。

番組には、イギリスの初期の音楽の演奏を復活させる上で大きな貢献をしたディビッド・マンローが登場し、演奏者を兼ね、1450年から1600年までのイギリスの室内楽合奏曲（声楽・器楽）の発展の過程を解説している。彼が主宰する The Early Music Consort of London や、ジェームス・パウマン（カウンター・テナー）の演奏で、ヘンリー8世、ホールボン、モーリー、ウィルキーズのほか、無名作曲家たちの作品も紹介され、また随時、古い楽器による即興演奏を通して、当時の音楽の特徴が具体的に提示される。

文部大臣賞

題名 お話でてこい—かきくけこ、かきくけこ—
部門 ラジオ学校放送初等教育番組部門
科目 国語
制作機関 日本放送協会—NHK
使用語 日本語
内容時間 15分00秒
制作者 武井 照子

（内容）

このシリーズ（「お話でてこい」）は、幼稚園・保育所の子供たちを対象とするもので、お話や詩を通して、子供たちに、正しい、美しい日本語に親しませ、広くことばに対する豊かな感覚を身に着けさせようとするものである。

日本では、古来、歌を詠み、詩を吟ずることが生活と密着して行なわれていた。しかし、今ではこうした風習もほとんど姿を消し、詩歌の鑑賞は、ことばそのものを味わうというよりも音楽（旋律）に付随した形で行なわれることが多くなった。そしてそれとともに、美しい日本語、魅力あることばへの関心が薄れてきている。

そこで、この番組は、詩の朗読を中心に取り上げ、ことば遊びや、自然音から擬声語を考え出す遊びなど、いくつかの試みを通して、美しい日本語や魅力あることばに子供たちの関心を向けさせようとしている。

東京都知事賞

題 名 脳の働き
部 門 ラジオ学校放送中等教育番組部門
科 目 科 学
制作機関 ルーマニア国営放送
使用語 ルーマニア語
内容時間 22分35秒
制 作 者 ルーマニア国営放送

(内容)

人間の脳についての生理学的な知識を復習させ、これを文学、心理学など、他の教科と関連づけさせようとするもので、「記憶」「感動性」「知識」「思考」「創造性」といった一連の脳の機能について、要領よくまとめている。原題は、「脳機能の解明された部分、未知の部分」となっている。

特 別 賞

題 名 未来をみつめて
部 門 ラジオ学校放送初等教育番組部門
科 目 社 会
制作機関 ボツワナ国営放送
使用語 英語、セツワナ語
内容時間 18分17秒
制 作 者 レッグ・ソールズベリー

(内容)

セミドキュメンタリー風のドラマによってボツワナの社会・経済的状况を伝え、それを通して地理、歴史、社会の学習を進めさせ、さらに数学(統計)や語学にも関連させようとする番組。

特 別 賞

題 名 西アフリカの歴史—ヨーロッパ人の到来—
部 門 ラジオ学校放送中等教育番組部門
科 目 歴 史
制作機関 ケニア国営放送
使用語 英 語
内容時間 19分27秒
制 作 者 ナイジェル・スレイド

(内容)

15～16世紀におけるヨーロッパ人の西アフリカ到来の歴史や、その動機を、現地人の反応などを織り交ぜながらドラマとナレーションでつづった番組。

特別賞

題名 健康の時間
部門 ラジオ成人教育放送番組部門
科目 保健衛生
制作機関 ニジェール国営放送
使用語 フランス語
内容時間 28分00秒
制作者 プレーマ・マガギ

(内容)

健康管理の専門家による指導や母子保護センターの实地見学などを通して、母親たちに新生児の世話の仕方を教えるもの。

審査委員賞

題名 お話と詩—この世の始まり—
部門 ラジオ学校放送初等教育番組部門
科目 文学
制作機関 イギリス放送協会—BBC
使用語 英語
内容時間 19分20秒
制作者 パディー・ベチェリー

(内容)

ユダヤ神話の中の天地創造の物語に、世界各地の詩人や子どもたちによるゆかりの詩を織り込みながら、詩劇風に構成したもの。

■テレビジョン

日本賞

題名 応急処置—12のテスト—
部門 テレビジョン成人教育放送番組部門
科目 保健衛生
制作機関 第2ドイツ・テレビジョン協会
使用語 英語(ドイツ語より吹き替え)
内容時間 57分44秒(カラー)
制作者 ハンス・モール

(内容)

保健、事故防止、応急処置について教える『ヘルス・マガジン』シリーズの中の1番組。ここでは応急処置の方法について、クイズの方法を取りながら教えている。

スタジオに年令性別の異なる6人の回答者を招き、テストをさせたり、フィルムを見せたりしながら正解を選ばせ、それに対して専門家がくわしく説明し、正しい方法を指導するというやり方である。

〈火事になったときは?〉〈消火器のハンドルが回せるか?〉〈やけどの応急手当は?〉〈危険な場所に人が寝ていたら?〉など、すべてが具体的、日常的な事柄についての質問であり、興味深い。〈水の中に自動車が落ちたときは?〉という質問のときには、車を水中へ落とし、飛び出す人をフィルムで見せている。科学的、具体的な構成で、しかも、丹念に制作された作品であり、だれにとってもためになる安全教育のための番組である。

郵政大臣賞

題 名 エレクトリック・カンパニー
部 門 テレビジョン学校放送初等教育番組部門
科 目 その他
制作機関 CTW (アメリカ合衆国)
使用語 英語
内容時間 28分38秒 (カラー)
制 作 者 デイビッド・D. コンネル

(内容)

7歳から10歳までの子供を対象とし、主として文字を読み取る力を養うことをねらいとした番組シリーズの1回。この制作機関の前回のシリーズ、『セサミ・ストリート』(幼児対象)と同様、エンターテイメントと教育とを融合させた演出で全編が構成されている。

コント、音楽、漫画アニメーションなどをふんだんに用いている点も前シリーズと同様であるが、今回はこれらの手法のほかに、コンピューターが描き出すさまざまな造形模様が随所に織り込まれ、ユーモラスな効果を生んでいる。

阿 部 賞

題 名 旅行案内所にて
部 門 テレビジョン学校放送中等教育番組部門
科 目 外国語
制作機関 ブレーメン放送協会 (西ドイツ)
使用語 英語
内容時間 18分45秒 (カラー)
制 作 者 R. B. ティースラー, H. P. グンプレヒト

(内容)

13歳から14歳までの中学生を対象とした楽しい英語番組で、次の三つの部分から成っている。

まず、街の旅行案内所の場面である。事務員のペニーは客の応接やら問い合わせの電話に出るやらで大忙しである。ここでは、ホテルの予約、飛行機の出発時刻、旅費といったことがテーマになり、過去形や現在完了形が比較的やさしい日常会話の形で登場する。この場面は見聴くためのものである。

次は、ペニーと客との応答の一部を視聴者が繰り返す場面である。ペニーの所へ二人の客がやってきて、パッケージ旅行がつまらなかったと苦情を言う。ここで、視聴者は“Why didn't you enjoy it?” “We didn't have good weather there.”といったやりとりをブザーのあとで繰り返す。

最後の部分は、ペニーが電話で客と問答をしている場面、ここではペニーの声は聞こえるが客の声は聞こえない。視聴者は、この問答の中でこの客のせりふを口に出してみる、といった趣向である。

ユニセフ賞

題 名 カルラスコレンダス
部 門 テレビジョン学校放送初等教育番組部門
科 目 その他
制作機関 KLRNテレビジョン（アメリカ合衆国）
使用語 スペイン語，英語
内容時間 28分10秒（カラー）
制作者 アイダ・バルレーラ

（内容）

5歳から7歳までのメキシコ系アメリカ人の子供たちのために制作されたシリーズの第1回である。

このシリーズは、彼らが、メキシコの国語（スペイン語）にもアメリカ合衆国の国語（英語）にも共に通じた子供として、また同時に、両国の文化を等しく身に着けた子供として、自信を持って生きていけるようにという願いから企画されたものである。

番組では、スペイン語や英語の発音、読み書き、ことば遊びなどから、歴史、科学、算数といった領域に至るまでの総合的な幼児教育が展開される。

歌や踊り、寸劇、ゲームなどのスタジオ・ショーに加えて、フィルム、漫画アニメーション、図表などをふんだんに用いるなど、子どもたちの注意をひきつけるためのさまざまな手法が、全編にわたって取り入れられている。

特別賞

題 名 消化の働き
部 門 テレビジョン学校放送初等教育番組部門
科 目 科学
制作機関 エルサルパドル教育テレビジョン
使用語 スペイン語
内容時間 15分00秒（モノクロ）
制作者 ロランド・ラブラドール・F.

（内容）

パペット、アニメーション、図表、フィルムなどを使いながら、10～11歳児に人間の消化の機能をわかりやすく教えている。

特別賞

題 名 座 標
部 門 テレビジョン学校放送中等教育番組部門
科 目 数 学
制作機関 マレーシア国営放送
使用語 英 語（モノクロ）
内容時間 16分21秒
制作者 チン・テン・ジュン

（内容）

教室の中での教師と生徒との位置関係からX、Yの座標の読み方を学習させ、さらに、日常生活における座標のさまざまな応用面に注意を向けさせる。

佳作番組解説

■ラ ジ オ

特 別 賞

題 名 ジョアン・ダ・シルバ
部 門 テレビジョン成人教育放送番組部門
科 目 その他
制作機関 ブラジル教育テレビセンター
使用語 ポルトガル語（モノクロ）
内容時間 41分00秒
制 作 者 フェルナンド・パンブローナ

（内容）

初等教育を終了していない人たちに、就職の手続きなどについての実際的な知識を与えるための番組。履歴書の書き方、数字の読み方などをドラマ形式で教えている

審査委員賞

題 名 アスカとオオカミ
部 門 テレビジョン学校放送初等教育番組部門
科 目 文 学
制作機関 ユーゴスラビア国営放送（ザグレブ・テレビ局）
使用語 クロアチア・セルビア語
内容時間 25分00秒（カラー）
制 作 者 ビジュニャ・ラスタ

（内容）

ユーゴのノーベル賞作家のおとぎ話を、作家自身のナレーションと人形の動きやパレーなどで美しく描いたもの。文章の美しさを味わわせ、また善悪や美醜の観念を^{くろ}寓話的に教えている。

佳 作

題 名 闇（やみ）におびえる子
部 門 ラジオ学校放送初等教育番組部門
科 目 その他
制作機関 スウェーデン放送協会—SR
使用語 スウェーデン語
内容時間 13分18秒
制 作 者 シクステン・グレーンルース

（内容）

夜や闇（やみ）をこわがっていた子どもが夜と友達になるまでを、ファンタスティックな美しいドラマで描いたもの。子供の「おびえる心理」をテーマにしたシリーズの中の1番組。

佳 作

題 名 ドラッグ（麻薬）
部 門 ラジオ学校放送中等教育番組部門
科 目 社 会
制作機関 西部ドイツ放送協会
使用語 ドイツ語
内容時間 20分30秒
制 作 者 M. ネステルベギーピング博士

（内容）

十代の間で今流行中のドラッグの使用について、体験者を含む17歳から20歳までの若者たちに賛否両論を展開させ、それを通して、現代社会における若者のあり方を考えさせている。

佳 作

題 名 メンデルスゾーンとスコットランド
部 門 ラジオ成人教育放送番組部門
科 目 音楽
制作機関 イスラエル放送協会
使用語 ヘブライ語
内容時間 42分00秒
制 作 者 デイビッド・チェン
(内容)

メンデルスゾーンが訪れたことのあるスコットランドの民俗や音楽を紹介しながら、彼がこの地で受けた印象が作品の中にどんな影響を与えたかを、演奏を聴かせながら解説している。

■ テレビジョン

佳 作

題 名 地球
部 門 テレビジョン学校放送初等教育番組部門
科 目 その他
制作機関 スウェーデン放送協会
使用語 スウェーデン語(英語スーパーあり)
内容時間 18分42秒(カラー)
制 作 者 カーリン・バン・ディイク
(内容)

言語以外に、手、表情、動作、抑揚によって感情が表現できることを、幼児に教える番組。月に住むステレンス人間に、子供たちが地球での生活を語るという趣向である。

佳 作

題 名 先人の苦勞を知ろう-カナダ社会の生い立ち-
部 門 テレビジョン学校放送中等教育番組部門
科 目 社会
制作機関 アルバータ視聴覚教育放送(カナダ)
使用語 英語
内容時間 28分40秒(カラー)
制 作 者 アルバータ視聴覚教育放送
(内容)

高校生を対象に、現体制の成立、意義、欠点などについての討論の素材を与えようとする番組。アニメーション、ドラマ、図表などを使い、開拓時代からの歴史がつけられている。

佳 作

題 名 計画出産
部 門 テレビジョン成人教育放送番組部門
科 目 科学
制作機関 ベルギー放送協会(フラマン語)-BRT
使用語 英語(カラー)
内容時間 51分32秒
制 作 者 ピエト・デ・フェールケネール
(内容)

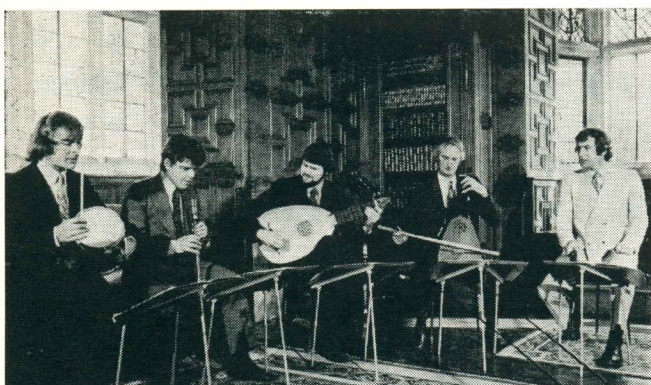
子供のない夫婦の悩みの解決法について考えようとする番組。人工授精の問題も取り上げられるが、これは技術的には容易だが心理的、精神的な問題が残ると解説されている。



「脳の動き」(ルーマニア国営放送制作)のスタジオ風景

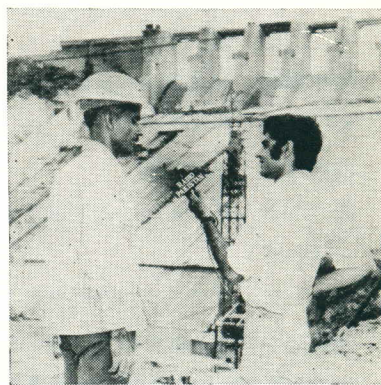


「お話でこーいーかきくけこ、かきくけこー」(日本放送協会制作)

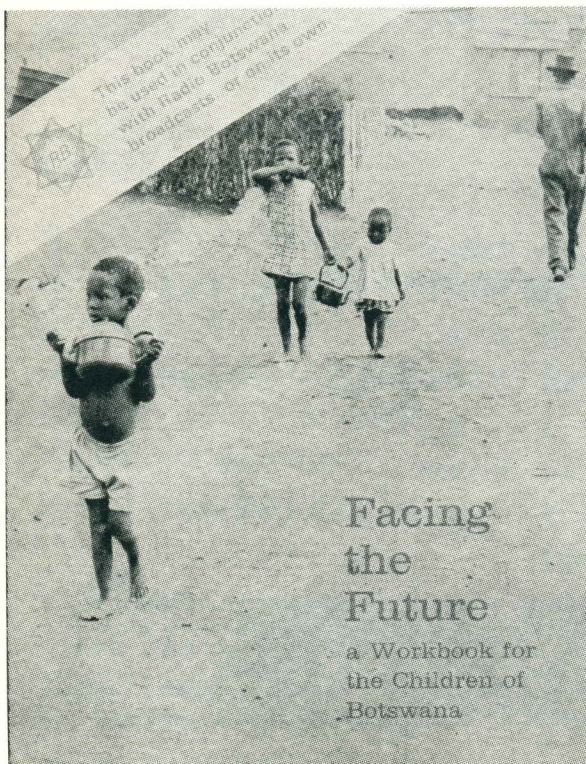


◀「ルネッサンスと宗教改革—イギリスの室内楽合奏曲—」(公開大学—イギリス—制作)

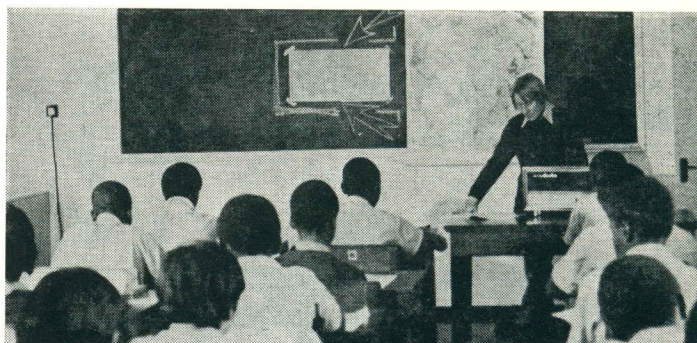
▶「タルベラ・ダム」(パキスタン国営放送制作)の取材風景



▼「西アフリカの歴史—ヨーロッパ人の到来—」(ケニア国営放送制作)を使った授業風景



「未来をみつめて」(ボツワナ国営放送制作)のワークブック



「国家の遺産—西部の開拓史—」(スタンダード学校放送—U.S.A.制作)のスタジオ風景

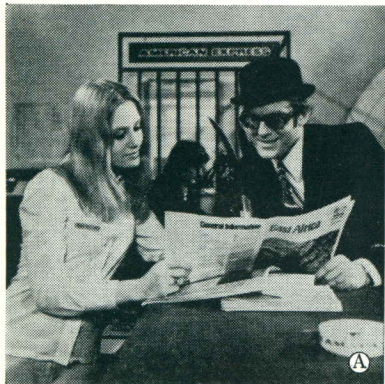
<テレビジョン>



「エレクトリック・カンパニー」(CTW-U.S.A.-制作)



「応急処置-12のテスト」(第2ドイツ・テレビジョン協会制作)



A



B



C



D

①「旅行案内所にて」(ブレーメン放送協会-西独-制作)

②「消化の動き」(エルサルバドル教育テレビジョン制作)

③「座標」(マレーシア国営放送制作)

④「ジョアン・ダ・シルバ」(ブラジル教育テレビセンター制作)

⑤「カルラスコングラス」(KLRNテレビジョン-U.S.A.制作)

⑥「アスカとオオカミ」(ユーゴスラビア国営放送制作)

⑦「キン・ワー少年と母」(ホンコン政庁教育テレビジョン制作)

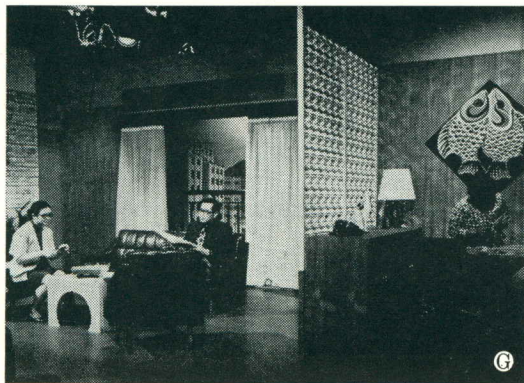
⑧「地図から消された町」(フランス放送協会制作)



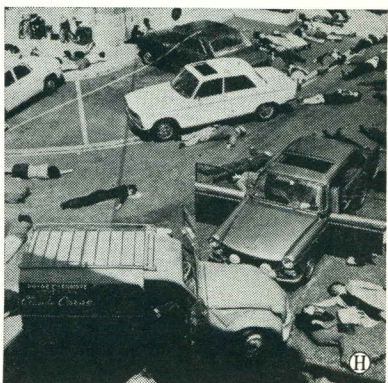
E



F



G



H

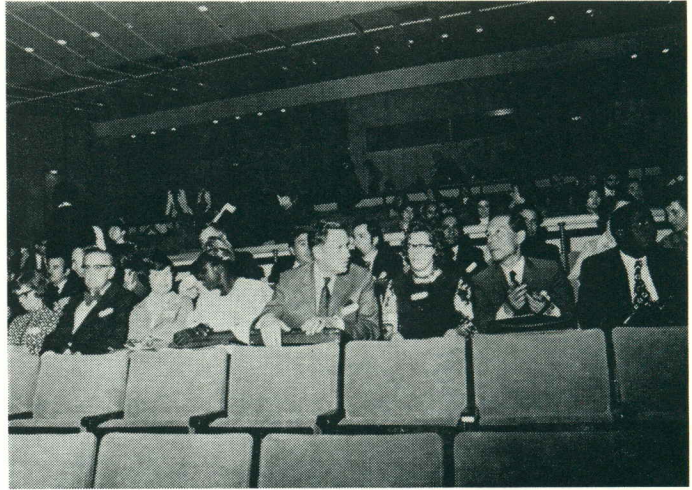
見学とレクリエーション



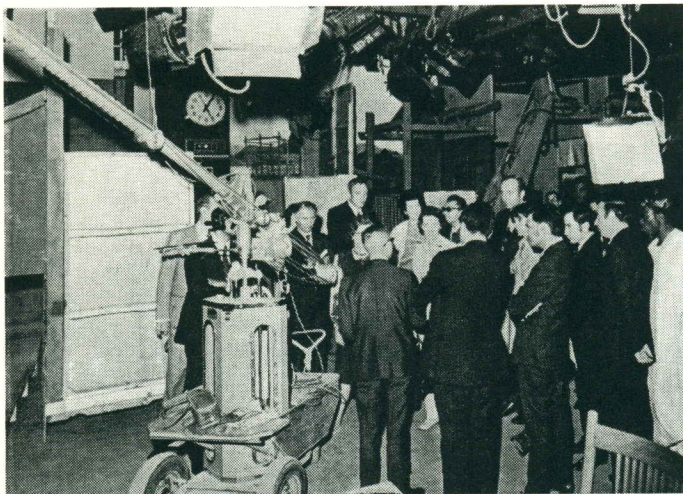
審査室の近くに展示された過去の日本賞受賞作品を紹介するパネル



日本賞賞牌が展示された審査室入口付近



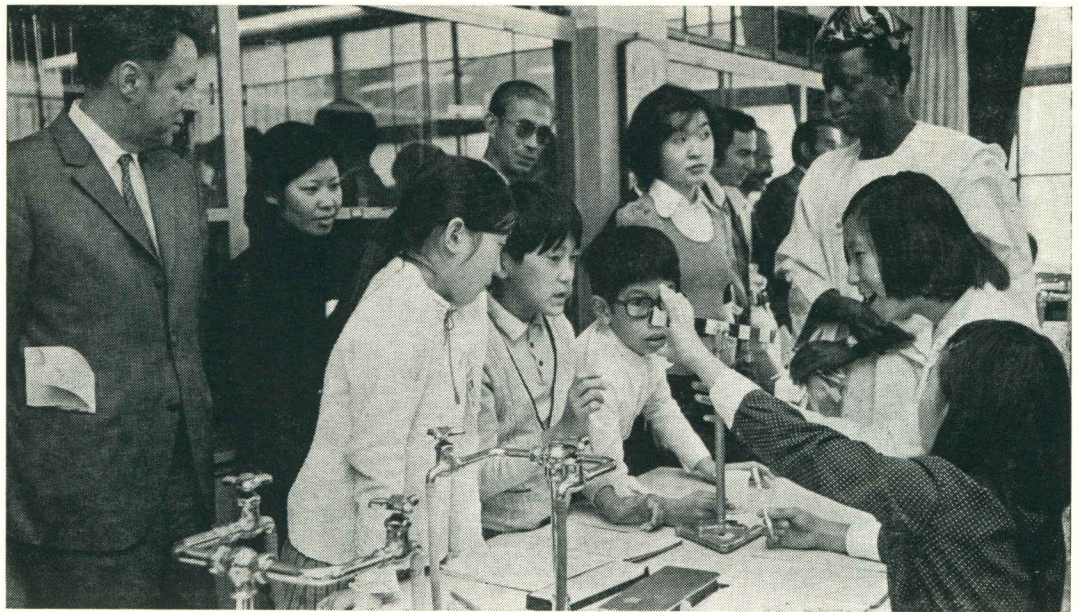
コロ舞蹈団公演鑑賞 (NHKホール)



放送施設見学 (NHK放送センター)

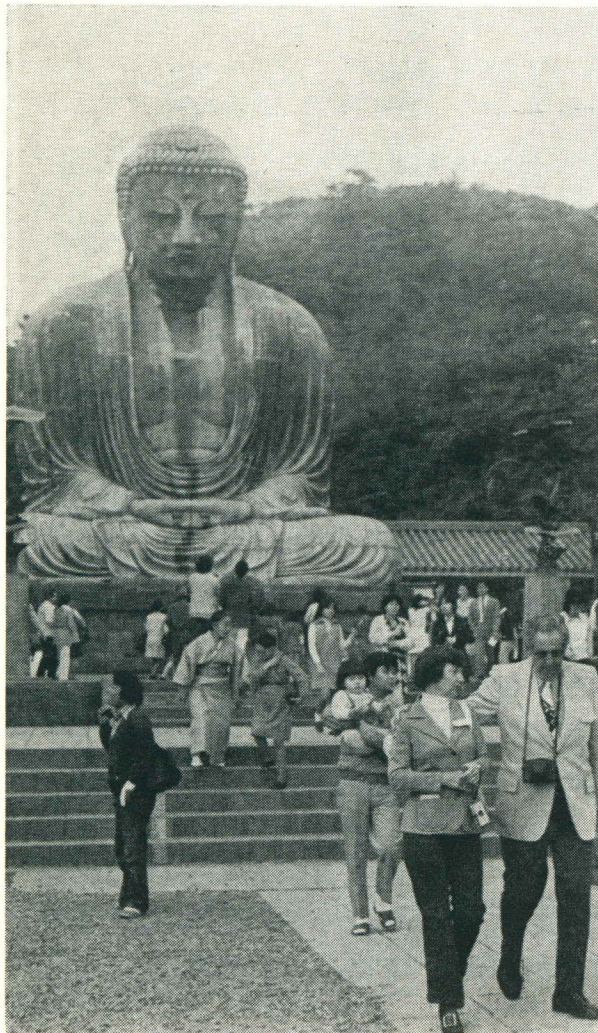


学校放送を利用した理科の授業の参観
(東京都渋谷区立渋谷小学校にて)



児童たちの実験に見入る審査委員、オブザーバーたち（東京都渋谷区立渋谷小学校にて）

旅の思い出（鎌倉の大仏にもうでる。
手前はC.カーペンター氏夫妻）

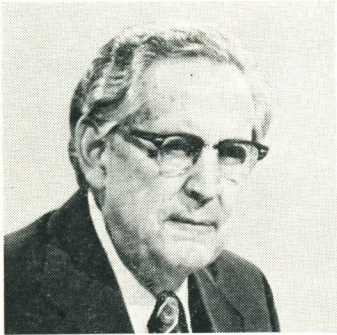


旅の思い出（東照宮秋季例大祭で千人行列を見る）





審査委員の感想



ペンシルベニア大学名誉教授

クレアレンス・R. カーペンター

(ラジオ部会審査委員)

—アメリカ合衆国—

審査所感

1973年10月5日、午前8時15分きっかりに、世界各地からの審査委員、オブザーバー、その他の参加者、そして主催者側の日本人を乗せたバスは動き出し、あっという間に、全員をNHKの建物に運んだ。第9回「日本賞」教育番組国際コンクールの審査委員は、かくて一堂に会したのである。審査委員会の仕事は、この日から向こう2週間、私たちの注意とエネルギーを完全に吸い上げることになるのだが、それはまた楽しくもあった。それぞれ7人から成るラジオ、テレビ両部会の審査委員は直ちに組織会議に臨んだ。

翌日、両部会はそれぞれの審査室に分かれた。ラジオ部会の7人は、自分たちがこれから取り掛かる仕事について指示を受け、用意が整ってから、大型スピーカーを取り囲むように扇形に着席した。スピーカーの両わきには、植え木と花が置いてあり、机上には、審査要領と共に68組のエントリー・フォーム、台本、それに投票用紙などが、審査委員一人一人のために、試聴する順に置いてあった。番組は教育段階に応じて、初等、中等、成人の三つに分類されていた。

ラジオの審査部会は、ブラジル、チェコスロバキア、アイルランド、日本、ネパール、ニジェール、アメリカ合衆国の各代表で構成されていた。それぞれの文化的背景は異なっていたし、同様に、教育ラジオ放送という広い分野においては、私たち各人の専門とするところもそれぞれに異なっていた。

私たちが始めようとしていた仕事は、手ごわい感じのものであった。まず、私たちは、各部門ごとに5本の優秀番組を選ぶ。次に、これらの15の番組の中から、次の各賞に該当する作品を選ぶわけである。すなわち、日本賞、文部大臣賞、東京都知事賞、各部門の特別賞、それに審査委員賞である。このほかに、私たちは佳作と

して奨励するに値する番組を各部門から1本ずつ選び出すのであった。

これはまた、^{おおごと}大事だ、まったくもって。

こんなばらばらの寄り合い世帯の中で、意見の一致など、いったいあるのだろうか。

いったい、どのようにしたら、こんな複雑な審査ができるというのだろうか。

粒ぞろいの作品ばかりで、しかも、どれもが、その国で最優秀の折り紙を付けられた労作だというのに、それを採点するなどということが、私の頭でできるのだろうか。

最初の番組である「くつみがきのピン」（南ベトナム国営放送制作）の再生の合図を恐る恐る出したとき、不安の波のうねりが、次から次へと私たちの上に襲いかかった。番組と番組の間には、前の番組を採点し、次の番組のエントリー・フォームを読むための5分間のインターバルがあり、以下「話を聞く一道での注意一」（イスラエル放送協会制作）、「アラビア砂ばくの人々」（マレーシア国営放送制作）、「フランスがえるのアフリカの旅」（南アフリカ放送協会制作）、「鉄道の歴史」（ベルギー放送協会—RTB）と続いた。

なんとさまざまな番組があることか。それに、技術の高さ。いったい、どうしたら、しかるべきえり分けができるというのだろうか。

審査要領を見ると、気持ちがいくらか落ち着いた。そして、この一風変わった人生体験に素早く慣れ、適応して5番組を聴き終わってから、私たちは、この審査要領を使い始めた。この審査要領は、私たちに、次のような問題を考えさせた。教育目的は、明確に、正確に打ち出されていたか。番組の構成はよかったか。時間の配分は、ほどよく、適切であったか。内容、主題、練習問題など

は、それぞれ必要性のあるものであったか。主題は典拠が正確で、まじめに取り扱われていたか。補助的メディアは効果的に使われていたか。新しい、独特の技法が試みられ、学習が期待通りに運ばれる可能性を高めていたか。技術面は優れていたか。番組の全体的な効果はどのていどのものであったか。

私たちの幾人かは、この審査規準に従って各番組を分析し、10点満点で採点した。各番組ともすでに選ばれてきたものであり、その上、再生技術も優れていたので、音質は上々であった。また、この審査規準とか、評価の目安は、まもなくいろいろな意味を持ち始めた。学習目的、内容、主題といった面の方が、番組の長さとか、新機軸といったことよりも重視されることになったのである。

私たちは、次から次へと番組に深くかかわりながら、メモを基に、初等部門の番組を細かく吟味してみた。すると、いくつかの番組が目につき出し、姿を現わし、採点の上で優位に立ち始めた。私たちの頭脳は小型コンピュータと化し、回収、選別、分類、連結、加算、重量測定などの作業を進め、最後に、番組を上位から順に並べたのである。それでもまだ、私たちの心は落ち着かなかった。さまざまな疑問がわいてきた。『ほかの審査委員はどう考え、どう判定し、どれを選ぼうとしていたのだろうか。』『自分の評価が、彼らの尺度とまるでかけ離れたものになっているのではないだろうか。』『私たちの中には、話し合ったり、メモを比べたりして、口頭で部会の合意を見出したいと考えた人たちもいたが、ほかの委員は、間もなく、初等部門29番組の中から優秀作5本の名前を挙げるところであった。私たちは、規定に従い無記名で投票した。短い討論のあと、第二次投票で上位5番組が決まったが、これは一同の驚きであった。』

私たちは、ほっとした気持ちになり、自信も加わって、次の中等部門の番組を聴き、これを採点した。そして、そうするうちに、私たちの感覚もさえていった。内容が主題によく合うように構成されているとか、意図する教育目的にびたりと焦点が合っていると、か、音声や演技が優れているとか、そういった点について、私たちはいっそう深く味わえるようになった。それと共に、筋立てが不十分であったり、散漫であったり、ドラマ作法が貧弱であったり、ラジオ・メディアの利用法を誤っていたりしたものがあると、じれったい思いと残念な気持ちが募っていった。とは言っても、内容や番組の取り上げ方が複雑になってくると、これを総合的に判定するということがいっそう難しい仕事になった。番組が聴取対象にびたりと合っているか、聴取者はその番組にどのような学習反応を示したか、といったことについて、手元にある資料から知るだけでなく、もっと多くのことを知らなければならなくなったのである。そこに書いてある教育目的に示されたように、その番組が、行動に変容をもたらし、学習を向上させる上で効果があるのなら、その証拠がほしい。この欲求はいっそう強くなったし、そうした証拠を集め、提示する方法は、数多くあったであろうと思われた。成人対象の番組はいっそう興味深いものであった。と言うのは、番組の主題が広い範囲に及んでいて、出生、自然、倫理、道徳問題、老年、歴史、家庭生活、転換期の歴史、先駆者や科学者とその事績、正義の問題から、訴訟手続きといったことまでも含んでいたからである。

学習者の参加を促し、その受け身の姿勢を正そうとする意図が見られる番組に出会うと、私たちは生き生きとしてくるのであった。そうした番組の中には、「かきくけこ、かきくけこ」(NHK制作)や「この世の始まり」

(イギリス放送協会制作ラジオビジョン)などがあり、いずれも興奮を呼び、注意を引き付ける番組であった。

課せられた仕事は大きかったが、審査委員として仕事をする喜びもまた大きかった。それは、かなうことなら私たちが番組を送ってきた人たちみんなと分かち合いたかったと思う一つの体験であった。この体験は信じがたいほどすばらしいごちそうのようなものであった。そしてそこには、教育上の要請にこたえ、ひいては、世界の何千何億という人たちの境遇を向上させるため、ラジオメディアを効果的に利用しようと腐心する大勢の人たちの、献身的な努力の跡が見られたのである。



アジア・マスコミュニケーション
研究・情報センター (AMIC)
事務局次長 (在シンガポール)

ゲルハルト・マレットケ

(テレビ部会審査委員)

—西ドイツ—

「日本賞」 コンクールの印象

「日本賞」は世界の放送人の間でも取り分けよく知られ、また、高い評価を受けているコンクールの一つである。これはNHKの声望に因るものであり、また、1965年の創設以来今日まで、先進国と発展途上国とを問わず実に多くの放送機関がこのコンクールに参加している、という事実にも因るものである。それだけに、このコンクールの期間に審査委員を仰せ付かることは、課せられる仕事が骨の折れるものであるにしても、たいへん名誉なことなのである。もっとも、この骨折りも、自分が多くのさまざまな、興味深い体験をしたり、また、NHKの比類のないほどの厚いもてなしを受けたりすることでじゅうぶん償われるのである。

1973年10月に開催された第9回「日本賞」コンクールを振り返るとき、審査委員会の仕事のことで述べてみたいことがいくつか思い出される。審査委員会は、この上なく協調的で友好的なふんい気の中で、作業を進めた。そして、政治、社会、あるいは教育などの背景がさまざまに異なっている、文字通りの国際的な寄り合い世帯であるにもかかわらず、多くの場合、全員一致の決定を見たのである。このように全員一致に達するということは、NHKが参加番組の審査規準（例えば、点数制のような）を厳密には定めていなかったことを考え合わせると、取り分け意味深いことである。あるのはいくつかの通則だけであり、それはただ、番組を審査するに当たってのいくつかの考え方を示すだけのものであった。

審査委員は皆、世界の教育テレビの現状について幅広い展望を持つ機会を得たことを感謝している。私たちは、「日本賞」コンクールの参加番組は、教育テレビの研究と研修のためにたいへん価値ある資料になるだろうということで意見が一致した。この点に関連し、NHKの「日本賞」巡回ライブラリー創設のプランは、審査委

員一同にとり歓迎すべきものであった。このライブラリーは、これらの素材を、教育テレビの指導、研修、研究などに関心のある人たちや研究機関の利用に供しようとするものである。

参加番組には実にさまざまなものがあり、一つ一つが異なるものであったが、いずれも高い水準を保っていた。番組の大半は、技術的に優秀であり、視聴対象にびったり合うように構成され、また、その多くは、高度の独創性を示していた。

発展途上国からの番組もかなりの数に上っていた。そして、その番組の多くは質的に高度のものであった。また、そのいくつかは、困難な条件の下で、しかも極めて限られた機器を使って制作されたものであった。それにつけても、審査委員一同は、特別賞という賞が設けられていたことに感謝したい。これは、機器の面で限りのある小規模局のために制定されたもので、このような局からの参加番組の中の優秀な作品や、その研さん努力を評価し、表彰する賞であった。

ここで、それらの「日本賞」コンクールの参加番組の中に見られた傾向や動向について、簡単ながら考察を加えてみることも、意味のあることと思われる。これといった科学的な客観性もなく、ただの主観的な印象にとどまるものであるが、私には次の点が顕著に認められるのである。

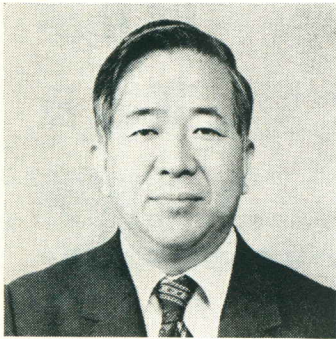
まず、明らかなことは、一つの技術メディアとしてのテレビのさまざまな可能性を実際に試してみようとする傾向が、制作者の間に高まっていることであり、これはカラー、カメラ、模型、アニメーションなどを利用した実験であれ、また、あるときはドラマ構成による実験であれ、同様に認められるのである。

次に見られる傾向は、番組によるコミュニケーション

のわく組みを、コミュニケーションのより広いわく組みや文脈にまで押し広げようとする傾向であり、これは、学習者と教師のための印刷物によるか、他の補助的な視聴覚的素材によるか、または、送り手と受け手との間の相互の接触によるコミュニケーションをつくらうとする努力（たとえば、学校やテレビ学習会の訪問など）などによって行なわれるものである。これらの熱心な試みは、複数メディアの利用と、人と人の触れ合いによるコミュニケーションとを組み合わせるやり方の方が、単一のメディアを使用するよりも効果がある、という科学的データに基づいて行なわれたものである。

最後の、もう一つの傾向というのは、受け身の視聴者を能動的な参加者に変えよう、という意図の下に組み立てられたコミュニケーションの過程の中に、受け手を呼び込もうとするものである。これは、実際にやってみて学ぶことのほうが、受け身で学ぶことよりも効果があるという原理に基づくものである。

これらの所見から得られる結論は、教育目的のためのラジオ・テレビは、まだ発展の途上にあり、行き詰まりには至っていない、ということである。むしろ、それどころか、発展の足取りは目覚ましいものがあり、その可能性もまだ尽きていないと言えるのである。そして、この事実こそは、「日本賞」コンクールを続けることが正しいことであり、また必要なことであるとする根拠なのである。



東京大学教授

東 洋

ラジオ部会審査委員

一 日 本 一

審査に参加して

まず最初に告白しておかなければならないのは、今度の「日本賞」の審査に参加して私が出た経験は、当初の予想をはるかに超えて大きく貴重なものだったということである。もちろん、引き受けるからにはなにがしか自分にプラスするものがあるだろうと思っていたわけだが、それは、技術的な水準での期待に過ぎなかった。つまり、いろいろな国で、私にとって目新しい教育放送の演出やプログラミングの工夫がされているだろう。それと日本の教育放送の中で育ってきた諸技法とを考え合わせて、将来の放送教育を考える一助にできるだろう、と考えていたのである。

BBCがよく使う手法と聞く、ラジオとスライドの併用や、さまざまな国でのテキストの形式や使い方など、そういう技術的な面での収穫もなかったわけではない。けれども、最も貴重だったのは、そのような職業的な水準での新知見ではなく、人間としての私に一つ新しい目を開かせるような種類の学習だった。それは、世界のいろいろな地域の人々の心の営みにじかに触れるという経験である。紀行や文学作品よりも、教育放送の方が、一人称の努力であるだけに、その国の人の心情、願い、問題意識などがじかに訴えてくる。入賞作については別に紹介があると思うので、賞に漏れたものの中から幾つか例を挙げてみよう。

ナイジェリア放送協会は、中等レベルで、「ムサ家でのあいさつ」というフランス語教育の番組を出している。外国語教育番組としては稚拙とさえ言えるような、芸のないもので、賞には遠かった。しかし、けれん味なしにとにかく幾つかのあいさつの慣用語をここで教え込むのだという気概があった。審査委員として来ていたニジェールのプレーマ・マガギ氏に聞いてみると、ナイジェリアはニジェール、ダオマーなどフランス語圏の西ア

フリカ諸国の中に囲まれながら母国語教育を打ち出し、外国語としては英語を主にしている。ところが、それでは近隣国との交流に支障を来す。そこで、最近まで大部分が文盲であり、部族語が何種類にも分かれている国民に、標準国語と、英語とフランス語とを一度に教えなければならないという状況に置かれ、その途方もない難題の解決への望みをラジオに託しているのである。

また、アイルランド放送協会は、成人部門で「家庭経営」というのを出している。家庭の主婦向けに、仕事の合理的配分、時間とエネルギーの節約などを、生のインタビューを入れながら説明する。妻がお金をかせぐ可能性から女性の独立による夫婦関係の変化、オープンマリッジの可能性にまで話が及ぶ。同じ機関のもう一つの番組「教育展望—問題提起—」に反映されている、ほとんど中世的な女子教育の実態と重ね合わせたとき、肩ひじ張らないでじゅんじゅんと説くこの番組が、一つの大きな社会的冒険であることがうなずける。そしてその中で一番後れた方に属するらしい主婦のインタビューに、次のようなアイルランド的機智が飛び出したりすると、全くうれしくなってしまう。

アナ「男の仕事は何だと思えますか？」

主婦「帰ってきて、食事をして、洗濯して、着替えして、ってとこね。」

アナ「何を洗濯するのですか。」

主婦「自分の^{からだ}身体ですよ。（あるいはトイレに行くとか）」

そうかと思うと、スウェーデン放送協会の初等部門の「闇（やみ）におびえる子」。ほとんど特別な教育意図の見えないお話である。きれいな音楽を伴奏に、夜が怖くて電灯をつけずにはいられなかった子が、「影むすめ」と仲良しになり、「夜をともして」、つまり暗くして、

聞こえてくるいろいろな音を楽しむようになるまでが、詩のような韻律で語られる。かわいい宝石のようなきらめきが、高緯度地域の長い夜の物語の伝統をしのばせる。

一つ一つ挙げればきりが無い。上手なもの、下手なもの、凝ったもの、単純なものなど、いろいろであり、賞の対象としての序列付けは、審査委員一同が自分でびっくりするほど高い一致度であったから、番組としての質のばらつきは大きかったはずだが、どれも忘れがたい。そして、ラジオという媒体の持つ表現力の豊かさを、改めて認識させられたしだいである。

最後になったが、この度のコンテストのために行き届いた準備を下さったNHKの関係者の方々に感謝しこのようにいろいろな意味で面白い番組の集まりを、何とか世界の放送教育者の共有財産にできるようなご配慮をわずらわしい。

第9回 「日本賞」コンクールに 参加して

～外国人参加者の手紙から～

チェコスロバキア国営放送

編成部長

(ラジオ部会審査委員)

バルトロメイ・

フラサティ

私は、「日本賞」コンクールは、世界的なコンクールとして比類のないものであり、支援し、広めていく価値のある催しであると信じます。その意味で、私は、最近チェコスロバキア・ジャーナリスト連盟主催の「教育に関するシンポジウム」の席上、わが国のジャーナリスト諸氏に、第9回「日本賞」コンクールでの私の体験を話しました。もちろん、私は、今後とも、このように、あらゆる機会をとらえて、「日本賞」コンクールのことを各方面に広く知らせていくつもりです。



日光東照宮境内にて

デンマーク放送協会
テレビジョン局長
(テレビ部会審査委員)

ラウリッツ・ビンズレウ

「日本賞」コンクールは、鮮明な印象とすばらしい思い出に満ちた出来事として、私の記憶に残ることでしょう。NHKのおもてなし、ご好意、ご親切は、全くこの上ないものでした。世界各地から参集した私たち審査委員は、実にたくさんの、さまざまな番組をいっしょに見て討論しましたが、NHKのそうしたご配慮のお陰で、この部会は、長時間にわたる、実り多いシンポジウムとも呼べそうなものになりました。そしてまた、「日本賞」の体験は、私の仕事の上でも、大きなプラスになりました。このコンクールを創設されたこと、そして、これを高い水準に維持してこられたことで、NHKは、文化の面で、たいへん大きな貢献をしているのだ、と私は確信しております。

エルサルバドル教育省
教育テレビジョン局 局長
(テレビ部会審査委員)

カルロス・ヘイマンス

初めに、1973年の「日本賞」コンクールに審査委員として参加する機会を頂きましたことにつき、私自身と、私の所属するエルサルバドル教育テレビジョンから、厚くお礼を申し上げます。私は、この名声高い教育番組コンクールの審査委員会に連なることにより、教育テレビについて、大いに見聞を広めることができました。この体験を指針として、また、それを私の同僚と分かち合っ、エルサルバドル教育テレビジョンの番組を向上させていきたいと願っております。私たちの機関の参加番組が1973年のコンクールで特別賞を頂きましたことは、私たちにとって大きな励ましであり、意欲をいっそうかきたててくれるものでした。

アイルランド放送協会
教育番組部長
(ラジオ部会審査委員)

ミーブ・コンウェイ＝ ピスコルスキー女史

審査委員の仕事は、私にとっては、正に研修の場となりました。ラジオ番組を通して、それぞれの国の国情や当面する問題を、私はどんなに強く感じたことでしょうか。それはことばに尽くせぬほどでした。また、番組形式にもさまざまな試みが見られましたので、それまで私が自分の仕事の中で取り上げてみよう、あれこれ考えていた事柄が、今ははっきりと心に描けるようになりました。

マレーシア国営放送
教育テレビ番組部長
(テレビ部会審査委員)

ジョージ・ブルギス

「日本賞」コンクールは、私にとって、たいへん掛け替えのない体験となりました。私は、テレビ部会の審査委員として、他の審査委員やオブザーバーの諸氏と、世界各地の優れた教育テレビ番組を視聴し、意見を述べ合い、また、その他の行事に参加したりしましたが、それらはすべて有益なものでした。ラジオ、テレビが教育に寄与する巨大な可能性が、今、私の眼前にはっきりと開けてきました。これは、以前の私にはおよそ至難の事と思われていたことです。私は、必ずや、あらゆる機会をとらえて、私がこのコンクールで学んだことを、私の局の同僚や国内の有志に伝達し、世界の一角である私の国の教育放送の向上に役立たせたいと念願しています。

アメリカ公共放送サービス
理事会議長
KLRNテレビジョン
(テキサス州)
会長
(テレビ部会審査委員)
ロバート・F. シェンカン

「日本賞」コンクールは、教育放送と国際理解の両面に深く寄与するものであると信じます。そして、私は、自分もこのコンクールの今後の発展と成功のためにお役に立ちたい、と念願しています。私は、ガン氏（アメリカ公共放送協会サービス会長ハートフォード・N. ガン二世）と、番組交換の可能性について話しました。ガン氏はたいへん興味を示していました。私たちは、ニューオーリンズで開かれるアメリカ合衆国教育放送人連合の会合でもう一度会い、この問題について話し合う予定です。きっと何か良い結果が得られると思います。なお、私はカーペンター博士にも手紙を送り、「日本賞」ライブラリーの地域センターとして、私のところの施設（テキサス州オースチンKLRN-TV）を提供する旨を伝えておきました。

南アフリカ放送協会
ソト語放送部長
(オブザーバー)
H. J. P. ラップ

私にとっては、日本滞在中の1分1分がほんとうに楽しいひとときでした。「日本賞」コンクールで、私は、優れたアイデアをいくつか手に入れましたので、近いうちに、それを自分の手で実際に試みてみようと思っています。また、コンクールで、私たちはよその国の大ぜいの人たちに会い、互いに知り合う機会を得ましたが、このことは、私たちの視野を豊かにしてくれました。

スイス放送協会—SSR—
(イタリア語地域放送協会)
科学・文化局長
(オブザーバー)
ビキショ・カンドルフィ
同 夫人

私たち二人のために、仕事と遊びの両面にわたって、完全なまでに見事におぜん立てをしてくださったこと、私たち訪問者に向けられた行き届いたご配慮、よその国の同業の方々や制作機関と近づきになれたこと、そしてまた、妻と出かけた東京観光や京都、日光への旅で、すばらしい日本の町々を知り、その土地の人々の厚い人情に触れることができたこと、など、そうしたいくつかのことがあって、私たちの日本滞在は忘れ得ないものになりました。

アメリカ合衆国
テレビ芸術・科学アカデミー
国際委員会
ハリウッド支部長
(オブザーバー)
ジーン・バーテル女史

私たちのアカデミー・ツアー一行がNHKと「日本賞」コンクールを参観いたしました際には、心のこもったおもてなしとご配慮にあずかり、ここに、一行と当テレビ・アカデミーに代わり、そして私自身からも、厚くお礼を申し述べるしだいです。私たちはNHKを訪問して大きな収穫を得たように思います。そして、今、私たちはこの見聞を他の会員たちと分かち合いたいと、切に念願しています。

(同女史を団長とする一行14名は、アジア旅行の途次、「日本賞」コンクール参観などのため、日本に10日間滞在した。)



「日本賞」事務局長
(NHK会長室特別主幹)

吉田 正

おわりに

「日本賞」巡回ライブラリー 誕生のことなど

第9回「日本賞」教育番組国際コンクールは、10年の歳月をかけてようやく完成した、東京NHKの放送センターで行なわれた。丁度、時を同じくして、4,000人を収容するNHKホールでは、落成を祝う特別演奏会が、海外の著名芸術家や団体を招いて、ほぼ連夜にわたって開かれていた。そして、本館22階の大会議室は、この部屋にとっては初めての海外からのお客様として、第9回「日本賞」コンクールの審査委員や多くのオブザーバーをお迎えすることになったのである。

審査は、連日朝から夜まで、例年のように骨の折れる仕事であったが、投票となると案外簡単に決まった。背景も年令も人種も異なる審査委員諸氏ではあったが、さすがに専門家の目は不思議に一致した。

今回の審査中に感じたことがもう一つあった。大変著名な番組が、どこかの国でできると、それをまねた番組がいろいろな国で作られるということだ。そのような媒介の役を務めることもこのコンクールの意義なのだが、対象となる視聴者の背景、その国の放送環境を考えない“まね”には頭をかしげてしまう。教育内容的にその番組を面白く豊かにするより、余分に砂糖をまぶす方が安易な方法だが、砂糖をそれほど入れなくても子供がテレビにかじりつくような環境では、砂糖の入れ過ぎは子供の胃腸にいかがかと考えるのである。

「日本賞」コンクールも、全世界の関係者のご協力では第10回を迎えることになる。第10回を記念して何か計画してはどうかと、審査委員やオブザーバーの方々からご懇篤なアドバイスも頂いた。事務局では、今、その10回目を目指して、企画に楽しい夢をふくらませているところである。

3年前から計画中であった「日本賞」巡回ライブラリーも、1974年1月に、各地域のライブラリーへ番組とガイドブックを発送し、いよいよそのスタートを切った。第1回分は、1972年度のコンクールの参加作品の中から選ばれた、ラジオ、テレビ各5本の番組である。当初

の計画では、世界の10か所の適当な機関に、このライブラリーの業務を委託することになっていたが、現在までのところ、設置されることに決まったのは、別掲の8機関である。他の2機関についても、すでに名乗り出られる機関がかなりあるので、第10回コンクールまでには全部を発足させたいものと念願している。

これらの地域のライブラリーの発足以前に、いくつかの放送機関から、それらの番組を視聴したいとの要望があったので、その中の数機関には、事務局から直接お送りしたが、このライブラリーが小規模ながらいよいよ発足の運びとなった今日、これが本当に広く皆様のご利用に供され、お役に立つものになることを祈っている。各地域のライブラリー業務をお引き受け頂いた各機関には、このライブラリーについて、それぞれの地域での周知と利用の促進とともに、できれば隣接国へも希望に応じて貸し出しをして頂くようお願いしてある。これらの容易ならぬ業務を深い理解をもってお引き受け下さった関係各機関に、厚くお礼を申し上げたい。

なお、各地域ライブラリーからは、年1回、利用状況についてのご意見を頂いて、将来のライブラリーの運営の改善に役立てていくことにしている。このささやかな試みが、皆様のご協力で、真に教育放送の向上と交流に寄与できることになれば、これに勝る喜びはない。

終わりに、このライブラリーの発足に当たり何かとご援助下さった皆様、各放送連合、ユネスコ、とりわけ経済的援助を惜しまれなかったケン財団、アメリカ東西センター、計画当初から貴重なご助言を寄せられた、同センターのW. シュラム教授に、心からお礼を申し上げます。

1974年3月

「日本賞」巡回ライブラリー地域センター所在地

(1974年3月現在)

アジア

日本：日本放送協会（NHK）
「日本賞」コンクール事務局
（東京）

シンガポール：アジア・マスコミュニケーション
研究・情報センター（AMIC）
（シンガポール）

中近東

イラン：イラン国営放送（NIRT）
文化センター
（テヘラン）

西 欧

ドイツ連邦

共和国：国際青少年教育テレビジョン研究所
（ミュンヘン）

北 米

アメリカ

合衆国：アメリカ東西センター、
コミュニケーション研究所
（ハワイ州、ホノルル）
：テキサス大学・コミュニケーション・
センター（テキサス州、オースチン）
：A I T—教育テレビ・エージェンシー
（インジアナ州、ブルーミントン）

中南米

メキシコ：ラテン・アメリカ教育コミュニケーション研究所（メキシコ・ユネスコセンター）
（メキシコ）

参加番組一覧

〔注〕 国名は50音順
 (初) ……初等部門
 (中) ……中等部門
 (成) ……成人部門

※印は初参加

Ⓡ……ラジオ

㊦……テレビ

アジア13か国, 17機関

インド

インド国営放送 (AIR)

- Ⓡ 4匹の子ねこ (初) 道徳
 ㊦ ラムーとその家族 (中) 言語 (外国語)

インドネシア

インドネシア国営ラジオ放送 (RRI)

- Ⓡ わらに生えるキノコ (初) その他 (植物)
 Ⓡ 月食と日食 (中) 科学

インドネシア国営テレビ放送 (TVRI)

- ㊦ 共鳴 (初) 音楽

韓国

韓国放送公社 (前 韓国国営放送)

- Ⓡ 子どものしかり方 (成) その他 (しつけ)
 ㊦ もう一つの月—明かりの歴史— (成) 歴史

シンガポール

シンガポール教育テレビジョン

- ㊦ ユーフェイの物語 (中) 言語 (外国語)
 ㊦ 創作の心 (中) その他 (文芸創作)

スリランカ

スリランカ放送協会

- Ⓡ こんにちは皆さん
 — 6年生の英語— (中) 言語 (外国語)
 Ⓡ 6年生の数学 (中) 数学

日本

※テレビ神奈川 (TVK)

- ㊦ ター君と風船 (初) その他 (情操教育)

株式会社日本教育テレビ (NET)

- ㊦ 江戸の火消し (初) 社会

日本放送協会 (NHK)

- Ⓡ お話でてこい
 —かきくけこ, かきくけこ— (初) 言語 (国語)
 Ⓡ 音をつくる (中) その他 (校内放送)
 ㊦ いちにのさんすう (初) 数学
 ㊦ 人工バッタ (中) 科学

ネパール

ネパール国営放送 (RNE)

- Ⓡ 社会科4年生—ブッダの生涯— (初) 社会

パキスタン

パキスタン国営放送 (RP)

- Ⓡ タルベラ・ダム (中) 社会
 パキスタン・テレビジョン
 ① レイラとチャニサルの物語 (成) 文学
- ビルマ**
 ※ビルマ国営放送
 Ⓡ 理科—植物の誕生— (初) その他(自然科学)
 Ⓡ 火山 (中) 地理
- フィリピン**
 フィリピン教育省公立学校局
 Ⓡ 農場の動物たち (初) 言語(国語)
- ベトナム共和国**
 南ベトナム国営放送
 Ⓡ くつみがきのビン (初) 公民
 Ⓡ タンおじさんの一家 (成) 文盲対策

- ホンコン**
 ホンコン政庁教育テレビジョン
 ① ハメルンの笛吹き (初) 言語(外国語)
 ① キン・ワー少年と母 (初) 社会

- マレーシア**
 マレーシア国営放送
 Ⓡ アラビア砂ばくの人々 (初) 地理
 Ⓡ 中等英語—ホリデーラマー— (中) 言語(外国語)
 ① 座標 (中) 数学
 ① 教師のための歴史 (成) 歴史

大洋州 3 国, 3 機関

- 英領ソロモン諸島**
 英領ソロモン教育庁放送
 Ⓡ クイーンズランドの昔話—
 一奴隷売買— (成) 歴史

- オーストラリア**
 オーストラリア放送委員会 (ABC)
 Ⓡ サイモンの誕生日 (初) 文学
 Ⓡ ケネス・スレッサー その1 (中) 文学
 ① お話する手 (初) 社会
 ① 見えない世界 (中) 科学

- ニュージーランド**
 ニュージーランド放送協会
 Ⓡ 音楽をつくりましょう (初) 音楽
 Ⓡ マオリ語初級第3課 (成) 言語(国語)

中近東 3 国, 4 機関

- イスラエル**
 イスラエル放送協会
 Ⓡ 話を聞く—一道での注意— (初) 公民
 Ⓡ メンデルスゾーンとスコットランド (成) 音楽
- イスラエル教育テレビセンター
 ① 今夜はカーニバル (初) 言語(外国語)
 ① 電気がついた (成) その他(現職教育)

- イラン**
 イラン国営放送
 ① パン (初) 社会
 ① 家と家庭 (初) 社会

- レバノン**
 レバノン国営放送
 Ⓡ 科学の世界 (中) 科学

西欧 12 国, 21 機関

- アイルランド**
 アイルランド放送協会 (RTE)
 Ⓡ 教育展望—一問題提起— (成) その他(教育)
 Ⓡ 家庭経営 (成) その他(家庭教育)
 ① リア王 その1 (中) 文学

- イギリス**
 イギリス放送協会 (BBC)
 Ⓡ お話と詩—この世の始まり— (初) 文学
 Ⓡ 社会福祉の時間—
 一精神病と身体障害— (成) 保健衛生
 ① ジョーと羊どろぼう (初) 言語(国語)
 ① ある少年犯罪 (成) その他(両親教育)

- 公開大学
 Ⓡ ルネッサンスと宗教改革—
 一イギリスの室内楽合奏曲— (成) 音楽
 ① 病院の真実—ことばの社会学— (成) その他
 (ことばの社会学)

- ATV テレビジョン**
 (インデペンデント・テレビジョン—ITV)
 ① 人間理解 (初) 社会
- グラナダ・テレビジョン
 (インデペンデント・テレビジョン—ITV)
 ① 人間のからだ—呼吸— (中) 科学

オーストリア

オーストリア放送協会 (ORF)

- ① 労働の今と昔 (中) 社会

オランダ

オランダ放送連盟 (NOS)

- ① スポッターさん川を渡る (初) 地理
① コンクリート (成) 技術指導

スイス

スイス放送協会 (SSR)

- ① 水の流れとよども (初) 芸術
① イタリアの仮面喜劇 (成) 歴史

スウェーデン

スウェーデン放送協会 (SR)

- ① 闇(やみ)におびえる子 (初) その他(児童心理)
① マルチンとオーベ (初) 科学
① 地球 (初) その他(心理学,
コミュニケーション)
① ベルファストの子どもたち (中) その他(時事問題)

デンマーク

デンマーク放送協会 (DR)

- ① カンニング (中) 地理
① 再出発 (成) 社会

ドイツ連邦共和国(西ドイツ)

バイエルン放送協会 (BR)

- ① 知らない人と会うとき (初) 公民

北ドイツ放送協会 (NDR)

- ① さんご礁の生物 (中) 科学

ブレーメン放送協会 (RB)

- ① 聴きましょう、弾きましょう
一木の音 (初) 音楽
① 旅行案内所にて (中) 言語(外国語)

南西ドイツ放送協会 (SWF)

- ① 経営管理講座 19回
一部下の評価について (成) その他(人事管理)

西部ドイツ放送協会 (WDR)

- ① ドラッグ(麻薬) (中) 社会
① マウスといっしょ (初) 数学

第2ドイツ・テレビジョン協会 (ZDF)

- ① 応急処置 —12のテスト— (成) 保健衛生
① 発声と聴覚のしくみ (成) 科学

ノルウェー

ノルウェー放送協会 (NRK)

- ① 少年とワシ (初) 科学
① たいせつなこと (中) 社会

フィンランド

フィンランド放送協会 (YLE)

- ① 旋律のおもしろさ (初) 音楽
① 生活必需品 (初) 科学
① 国際化するマスコミ (成) 科学

フランス

フランス放送協会 (ORTF)

- ① 知らない人とは口をきかない (中) その他
① アルルの鈴と羊飼 (成) その他(人文地理)
① 水の生態 (中) その他(生態学)
① 地図から消された町 (成) 公民

ベルギー

ベルギー放送協会 (BRT—フラマン語)

- ① デンマーク (中) 地理
① 計画出産 (成) 科学

ベルギー放送協会 (RTB—フランス語)

- ① 岸辺の動物たち (初) 言語(国語)
① 鉄道の歴史 (初) 歴史
① 歯の衛生 (初) 保健衛生
① 過去分詞の七つの形 (成) 言語(国語)

東欧8か国, 8機関

ソビエト

ソビエト国営放送

- ① バイオリンの弓の冒険 (初) 音楽
① 人間・地球・宇宙 (成) 科学

チェコスロバキア

チェコスロバキア国営放送

- ① きみならどうする (初) 道徳
① 金星 (中) 科学
① ビート坊やの秘密 (初) 道徳
① 人類の起源と進化 (中) 歴史

ドイツ民主共和国(東ドイツ)

※東ドイツ国営放送 (DDR)

- ① 日曜日のお話の時間
—赤いめんどり— (初) 音楽
① 偉大なる先駆者たち
—物理学者セルシウス— (中) 科学

- ㊦ 現代の冒険
—第7回GDR展覧会を訪ねて— (中) 芸術
- ㊦ レストランにて (中) 言語 (外国語)

ハンガリー

- ハンガリー国営放送
- ㊦ うらやましがりの子ぐまたち (初) 文学
- ㊦ 愛鳥運動 (中) 科学

ブルガリア

- ブルガリア国営放送
- ㊦ 生徒の時間 —平和な日々— (中) 科学
- ㊦ 偶像 (成) 芸術

ポーランド

- ポーランド国営放送
- ㊦ 主語と述語 (初) 言語 (国語)
- ㊦ ニコラス・コペルニクス
—その時代と人々— (成) 歴史
- ㊦ 両親と遺伝 (成) 科学

ユーゴスラビア

- ユーゴスラビア国営放送
- ㊦ わたしの絵本
—空飛ぶフェアバン— (初) 文学
- ㊦ ののしることば (成) 社会
- ㊦ アスカとオオカミ (初) 文学
- ㊦ 女の学校 (成) その他
(成人教育初級)

ルーマニア

- ルーマニア国営放送
- ㊦ 脳の働き (中) 科学
- ㊦ 古代文明 (中) 歴史

アフリカ 8 国, 8 機関

ウガンダ

- ウガンダ教育省放送
- ㊦ お話の時間
—鳥とけものたたかい— (初) 言語 (外国語)

エチオピア

- エチオピア教育マスメディアセンター
- ㊦ マーケット (中) 言語 (外国語)

ケニア

- ケニア国営放送

- ㊦ 猟区警備隊 (初) 言語 (国語)
- ㊦ 西アフリカの歴史
—ヨーロッパ人の到来— (中) 歴史

ザンビア

- ザンビア教育省放送
- ㊦ もしもくじが当たったら (中) 言語 (国語)
- ㊦ ザンビア伝統文化の没落 (成) 歴史

ナイジェリア

- ナイジェリア放送協会 (NBC)
- ㊦ ムサの家でのあいさつ (中) 言語 (外国語)

ニジェール

- ニジェール国営放送
- ㊦ 健康の時間
—乳児死亡率を下げるには— (成) 保健衛生
- ㊦ よりよい生活への道
—文盲との闘い— (成) 文盲対策

ボツワナ

- ※ボツワナ国営放送
- ㊦ 未来をみつめて (初) 社会

南アフリカ共和国

- 南アフリカ放送協会 (SABC)
- ㊦ ボーティーおじさんの昔話
—フランスがえるのアフリカの旅— (初) 歴史
- ㊦ ミツバチの世界 (中) 科学

北米 2 国, 18 機関

カナダ

- アルバータ視聴覚教育放送
- ㊦ 偉大なる精神 (初) 社会
- ㊦ 先人の苦勞を知ろう
—カナダ社会の生い立ち— (中) 社会
- エドモントン教育テレビジョン (MEETA)
- ㊦ 世の中のきまり (初) 社会
- オンタリオ教育テレビジョン公社
- ㊦ 耳をすまして (初) 音楽
- カナダ放送協会 (CBC)
- ㊦ 作曲家との対話 (中) 芸術
- ㊦ 愉快的なジブキー (初) その他 (自然観察)
- ㊦ ペルー —試練の谷間— (中) 社会

アメリカ合衆国

- アメリカ放送会社 (ABC)

① ロックで学ぶ掛け算 (初) 数 学

CTW

① エレクトリック・カンパニー (初) 言 語 (国語)

KABC カリフォルニア・コミュニティー・テレビジョン

① スーパーマーケット駆け歩き (成) その他 (消費経済)

※KLRNテレビジョン (テキサス)

① カルラスコレンダス (初) その他
(二重言語, 二重文化教育)

ハワイ教育テレビジョン

① オペラとは (中) 音 楽

※KPCS トータル・ラジオ (カリフォルニア)

① 科学の開拓者たち
—地学の革命— (中) 科 学

アメリカ教育テレビセンター (NITC)

① デビーとボビー (初) その他 (児童心理)

※スタンダード学校放送 (カリフォルニア)

① 国家の遺産 —西部の開拓史— (中) 歴 史

WHRO-TV ハンプトンロード教育テレビジョン (バージニア)

① 空気を汚すもの (初) 科 学

WGN コンチネンタル放送会社 (イリノイ)

① 歌曲のオーディション (成) 芸 術

① 芸術家登場 (成) 芸 術

※タフト放送会社 (オハイオ)

① シギの最後 (初) 科 学

ワシントンD. C. 教育放送

① 手と足の話 (初) その他 (幼児教育)

※WMARテレビジョン (メリーランド)

① 心臓病 (成) 保健衛生

※WIIIC コックス放送会社

① アジジ —アフリカの話— (初) その他 (黒人文化)

① ジョアン・ダ・シルバ (成) その他 (成人教育
初級, および半文
盲者対策)

※テレビ・ガゼータ (CANAL 11)

① 英語講座 (成) 言 語 (外国語)

ランデル・デ・モウラ教育財団

① 職業教育 —石油— (成) その他 (職業教育)

ベネズエラ

※エドゥカテル (EDUCATEL)

① みんなともだち (初) その他
(就学前教育)

メキシコ

テレビサ S. A. (前 テレシステマ S. A.)

① ガリレオ・ガリレイ (中) 歴 史

中南米 5 か国, 7 機関

エルサルバドル

エルサルバドル教育テレビジョン

① 消化の働き (初) 科 学

コロンビア

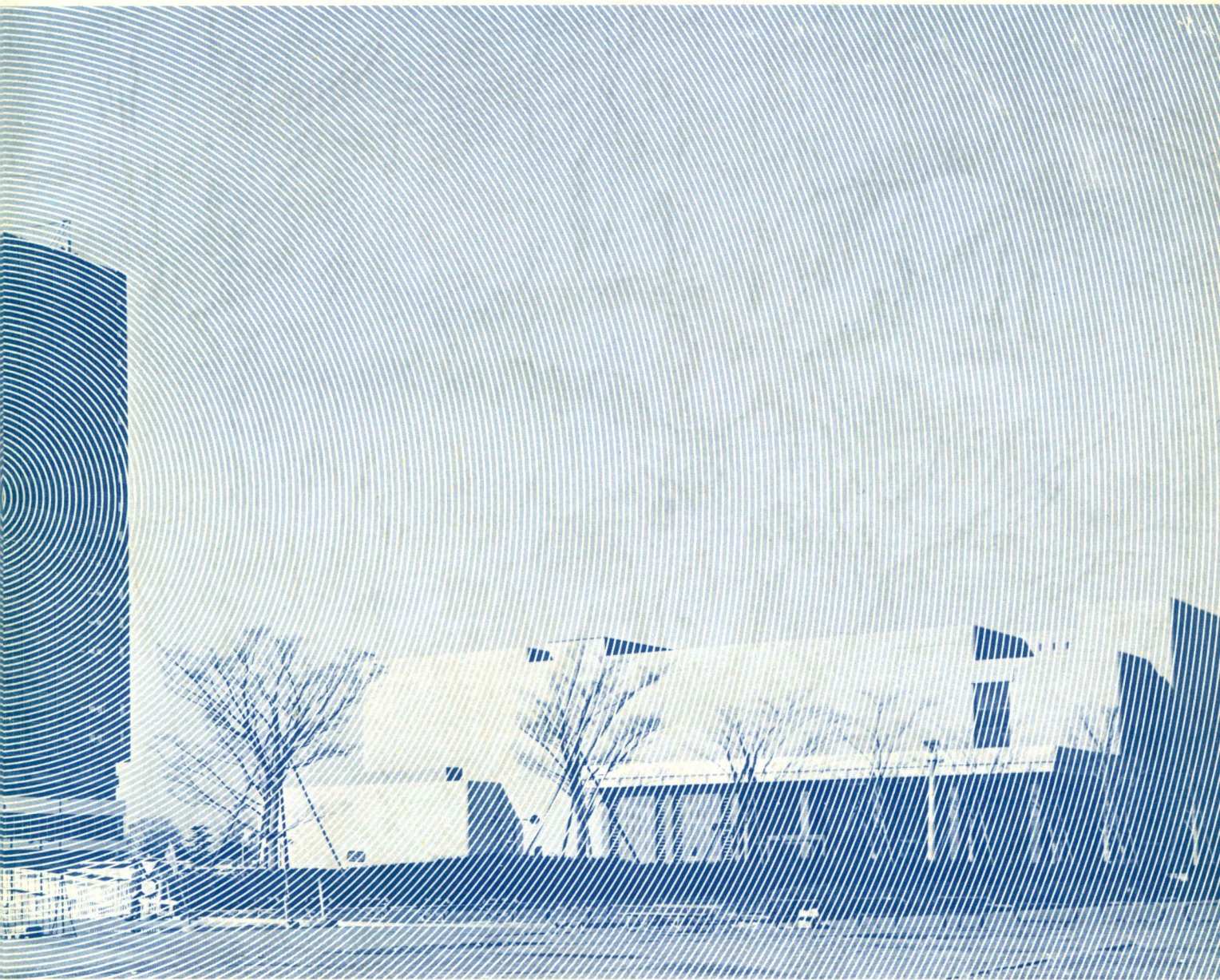
コロンビア国営放送 (INRAVISION)

① 地質と気象と大気の話 (初) 科 学

① ナリーニョとミランダ (初) 歴 史

ブラジル

※ブラジル教育テレビセンター



「日本賞」教育番組国際コンクール事務局

〒150 東京都渋谷区神南2-2-1

日本放送協会

電話 大代表(03)465-1111

表紙題字 小木太法
表紙デザイン 高智壽朗

